

2024 年度

事業報告書

一般社団法人

日本計量機器工業連合会

目 次

組 織 と 人 事	1
事 業	4
1. 技術開発に係る事業	4
2. 規格の作成と普及に係る事業	9
3. 計量器の普及・広報に係る事業	16
4. 市場動向等調査研究に係る事業	23
5. 計量制度に係る調査研究事業	24
6. 高度化に係る事業	25
7. 国際協力・交流に係る事業	34
8. 循環型社会対応に係る事業	40
9. 行政施策等に関する協力事業	42
10. 業務活動	44
会 議	50
事業報告書の附属明細書	62

組 織 と 人 事

1. 会 員

前年度末の会員数は正会員 125 社 5 団体、賛助会員 16 社 4 団体であった。本年度中に正会員 2 社、賛助会員 1 社の退会があり、2024 年度末（2025 年 3 月 31 日）の会員数は次のとおりとなっている。

正 会 員	1 2 3 社	}	1 4 7
	5 団体		
賛助会員	1 5 社		
	4 団体		

なお、本年度中に退会した会員は、次の各社である。

退 会	(株)西部水道機器製作所（正会員）
	前澤給装工業(株)（正会員）
	ジック(株)（賛助会員）

2. 委員会及び部会

本年度設置された委員会及び部会は次のとおりである。

○ 委員会

総務政策委員会	(委員長 谷本 淳)
労務委員会	(" 井場 健)
技術委員会	(" 杉 亮一)
はかり技術委員会	(" 田尻 祥子)
流量計技術委員会	(" 若松 武史)
水道メーター技術委員会	(" 三輪 和弘)
レベル計技術委員会	(" 関野 貴之)
騒音計・振動レベル計技術委員会	(" 高木 康史)
市場開発委員会	(" 鎌田 長明)
国際事業委員会	(" 谷田 千里)
広報委員会	(" 川西 能久)
INTERMEASURE 2024 実行委員会	(" 榎本 晋虎)
計量計測機器総覧編集委員会	(" 田村 旬)
流量計マニュアル編集委員会	(" 古市 紀之)

環境委員会	(委員長 吹原 智宏)
国際法定計量調査研究委員会	(" 大田 明博)
ISO/TC28/SC2 国内対策委員会	(" 嶋田 隆司)
ISO/TC30/SC7 国内対策委員会	(" 三輪 和弘)
ISO/TC30/SC5/WG4 国内対策委員会	(" 古市 紀之)
電子体温計 JIS 原案作成委員会	(" 神長 亘)
微流量燃料油メーターJIS 改正検討委員会	(" 島田 正樹)
密度浮ひょう及び浮ひょう型比重計 JIS 原案作成委員会	(" 井上 太)
自動捕捉式はかり JIS 原案作成委員会	(" 長野 智博)
重錘形圧力天びん、重錘形圧力天びんの使用方法及び校正方法 JIS 原案作成委員会	(" 梶川 宏明)
質量標準トレーサビリティ研究会	(" 村上 昇)
ピペットトレーサビリティ研究会	(" 高尾 明寿)
温度計測・熱物性研究会	(" 石井順太郎)
はかり技能試験専門家委員会	(" 植木 正明)
圧力計技能試験専門家委員会	(" 高辻 利之)
計量計測機器製造業高齢者雇用推進委員会	(座 長 内田 賢)

○ 部 会

長さ測定機器部会	(部会長 鴨下 裕彦)
はかり部会	(" 田中 康之)
ICW2026 国内実行委員会	(委員長 田中 康之)
レベル計部会	(部会長 泉 俊彰)
流体計測機器部会	(" 星加 俊之)

3. 役員・顧問及び事務局

○ 役員・顧問

2024年4月17日に開催された第57回理事会において、田中会長から5月21日開催の第13回定時総会をもって退任の意向が示された。

また、2024年5月21日に開催された第13回定時総会において任期満了に伴う新役員の選任が行われ、引き続き行われた第58回理事会で各級役員が選定されて、次のとおり就任した。

会 長	山 本 靖 則	(株)島津製作所	社長
副 会 長	杉 亮 一	東京計装(株)	社長
"	佐 藤 正 継	長野計器(株)	社長
"	谷 本 淳	(株)オーバル	社長

常任理事	下 住 晃 平	(株)共和電業	取締役
〃	坂 井 知 峰	(株)ミットヨ	取締役常務執行役員
〃	川 西 能 久	大和製衡(株)	相談役
〃	龍 野 廣 道	(株)タツノ	社長
〃	井 場 健	(株)イシダ	東京支社長
〃	松 田 康 二	トキコシステムソリューションズ(株)	取締役
〃	吹 原 智 宏	(株)クボタ	精密機器事業ユニット長
〃	清 水 孝 雄	(株)チノー	取締役専務執行役員
〃	鎌 田 長 明	鎌長製衡(株)	社長
専務理事	三 澤 慶一郎		
常務理事	高 辻 利 之		
理 事	宮 澤 光 晴	アズビル金門(株)	会長
〃	寺 岡 和 治	(株)寺岡精工	会長
〃	村 山 豊	(株)TJM デザイン	取締役
〃	村 田 勲 一	アンリツ(株)	執行役員
〃	星 加 俊 之	愛知時計電機(株)	会長
〃	森 島 泰 信	(株)エー・アンド・デイ	社長
〃	谷 田 千 里	(株)タニタ	社長
〃	土 田 泰 秀	東洋計器(株)	会長
〃	磯 部 公 克	矢崎エナジーシステム(株)	執行役員
〃	田 中 康 之	(株)田中衡機工業所	社長
〃	辻 修	(株)東日製作所	社長
〃	鴨 下 裕 彦	ヤマヨ測定機(株)	社長
〃	村 上 昇	(株)村上衡器製作所	社長
監 事	江 守 栄	(株)ケツト科学研究所	会長
〃	多 田 勢津子	第一物産(株)	社長
〃	小 川 弘	(株)三光精衡所	会長
名誉顧問	中 本 晃	(株)島津製作所	相談役
名誉顧問	田 中 義 一	(株)共和電業	社長
顧 問	堀 井 茂		
〃	依 田 恵 夫	長野計器(株)	相談役
〃	小 島 孔		

○ 事務局

期中、職員 1 名の採用があり、年度末における役職員（嘱託を含む）は 13 名である。

事 業

1. 技術開発に係る事業

(1) DXに係る社会実装事例研究

計測データネットワークシステムを柱とする DX 化並びにロボット等による自動化省力化に取り組む(株)ミットヨ宇都宮事業所を訪問し、計測の DX 化と自動化・省力化に関する技術セミナー・工場見学会を行った。さらに、参加企業・機関の DX 化の取組等を広く紹介するため、ポスターセッションを実施した。本研修には、会員企業 17 社 41 名が参加したほか、ポスターセッション発表及び関係者として、産業技術総合研究所及び都道府県公設試験所から 14 機関 34 名が参加した。

日 時 2024 年 7 月 10 日 (水) 13 時 10 分～20 時

7 月 11 日 (木) 9 時～12 時 20 分

場 所 (株)ミットヨ宇都宮事業所 MC・測器工場 (7 月 10 日)

(株)ミットヨ清原工場 (7 月 11 日)

(2) 新技術導入・活用研究会

新しい製品・技術の開発、より付加価値の高い製品への転換等に資するため、「安心・安全な環境作りに求められる計測技術」をテーマに 6 回の研究会を開催した。

研究コーディネーターに産業技術総合研究所 企画本部 チーフ標準化オフィサーの藤本俊幸氏をお迎えし、テーマ毎に各分野の学識者や専門家から講義を受け、質疑応答、討論を行うなどして新技術の導入・活用の推進に資した。参加者は 16 社 17 名であった。

第 1 回研究会 (2024 年 10 月 29 日 (火) 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

テ ー マ 「安全・安心に活用するための AI の品質マネジメントについて」

講 師 産業技術総合研究所 企画本部

知財・標準化推進部 標準化オフィサー 妹尾 義樹氏

第 2 回研究会 (2024 年 11 月 29 日 (金) 於 日本計量会館及びオンライン)

テ ー マ 「多元混合科学情報の取得戦略とケモメトリックスを活用した化学センシング」

講 師 東京大学 生産技術研究所 准教授 南 豪氏

第 3 回研究会 (2024 年 12 月 17 日 (火) 於 日本計量会館及びオンライン)

テ ー マ 「DX および測定の不確かさを活用した、試験・検査の信頼性を

保証する新規計量管理システムの開発」

講 師 産業技術総合研究所 計量標準総合センター
工学計測標準研究部門 データサイエンス研究グループ
研究グループ長 城野 克広氏

第4回研究会（2025年1月22日（水） 於 東京科学大学 すずかけ台キャンパス
及びオンライン）

テ ー マ 「機械学習、ロボット、研究者の協働で実現するデジタルラボトリ」
講 師 東京大学 大学院理学系研究科 化学専攻 教授
東京科学大学 物質理工学院 応用化学系 特任教授 一杉 太郎氏

第5回研究会（2025年2月14日（金） 於 日本計量会館及びオンライン）

テ ー マ 「秘密計算技術の最新動向と同技術を活用したプライバシー保護
データマイニング」

講 師 早稲田大学 理工学院 基幹理工学部 教授 清水 佳奈氏

第6回研究会（2025年3月7日（金） 於 水産研究・教育機構

水産研究・開発機構横浜庁舎及びオンライン）

テ ー マ 「安全・安心な水産物を支える研究開発：貝毒標準物質の開発、
海洋マイクロプラスチック研究の最前線」

講 師 水産研究・教育機構 水産技術研究所
環境・応用部門長 鈴木 敏之氏

（3）製品・技術開発のための産学官連携に係る調査研究

国際間、企業間の競争が一段と厳しさを増し産業構造の転換、グローバル化が進展する中、競争力の強化に向けた独自製品の開発・新技術の導入は重要な課題であるが、これら新製品・新技術の開発には、産学官連携による研究開発の推進が有効な手段の一つとなっている。

このため、本年度は、「脱炭素技術」分野を対象に国内の大学、試験研究機関等の研究テーマを抽出し、研究者名、所属、研究概要等の情報をデータベースに取りまとめた。

脱炭素技術 36 機関 58 テーマ

このほか、同事業の一環として、産業技術総合研究所と東京大学が共同運営している産総研・東京大学先端オペランド計測技術 OIL を訪問し、同ラボにおける産学連携事業の取組、活動内容等の紹介とともに、各種測定技術等に係る研究テーマについて講演が行われ、講演後は各研究室の見学及び質疑応答を行った。

日 時 2024 年 10 月 3 日 (木) 13 時 30 分～17 時
名 称 産総研・東京大学先端オペランド計測技術 OIL
研究拠点 東京大学柏キャンパス 第 2 総合研究棟 4 階 (産総研 東京大学連携研究サイト)
事務オフィス 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 7 階 707 号室
研究概要 先端オペランド計測技術オープンイノベーションラボラトリ (オペランド OIL) は、先端オペランド計測技術とそれらを活用した材料及びプロセスの開発とともに、これら成果の企業での早期実用化を図る研究拠点として、2016 年 6 月に設立され、約 5 年間の研究活動を行ってきた。この間、研究設備・環境の整備を進めながら、のべ 14 の研究課題に取り組み、数多くの研究成果をあげている。その後、2021 年 4 月 1 日からは、産総研の第五期中長期計画期間の目標である「社会課題の解決」に焦点を当て「単一状態計測チーム」と「加工プロセス計測チーム」の 2 チーム体制となっている。

研究メンバー ラボ長 伯田 幸也氏 (産総研 ナノ材料研究部門副研究部門長)
副ラボ長 秋山 英文氏 (東京大学 物性研究所教授)
副ラボ長 向田 雅一氏 (産総研 ナノ材料研究部門主任研究員)
ラボ付 石井 順太郎氏 (産総研 分析計測標準研究部門研究部門長)
ラボ付 原 重樹氏 (産総研 ナノ材料研究部門研究部門長)
単一状態計測ラボチーム長 三尾 和弘氏 (産総研)
加工プロセス計測ラボチーム長 黒田 隆之助氏 (産総研)

(4) 計量器校正技術等に関する調査研究

① 質量標準トレーサビリティに関する調査研究

質量標準トレーサビリティに関する情報交換、校正技術の向上等を目的に、関係企業、機関 41 社参加のもとに、JCSS 技術管理者間の情報交換と懇談のため、幹事会 2 回、意見交換会 2 回開催し、調査研究を行った。

② はかり及び分銅の管理・校正技術に関する講習会の開催

はかり及び分銅の管理・校正技術に関する講習会を静岡市で開催した。講習会では、はかり及び分銅の校正技術の基礎、校正方法、不確かさの見積り方法、校正上の注意事項等について事例紹介や実用的な技術指導と評価方法の講義が行われた。

<講習会>

日 時 2024 年 11 月 27 日 (火) 10 時～16 時 30 分
場 所 大阪府大阪市

受講者	校正従事者及びはかり使用者 34 名
テーマ	JCSS 計量制度概要、ユーザー機器管理の状況
講 師	メトラー・トレド(株) メトロロジーマネージャー 高柳 庸一郎氏
テーマ	分銅の管理及び関連規格、校正の不確かさ
講 師	(株)村上衡器製作所 代表取締役社長 村上 昇氏
テーマ	はかりの校正及び不確かさの算出方法・評価
講 師	(一財) 日本品質保証機構 計量計測センター 力学計測課 技術副参事 高尾 明寿氏

③ 液体微量体積標準トレーサビリティに関する調査研究

液体微量体積計（ピペット）の標準供給体制の整備を図るため、(独) 製品評価技術基盤機構及び産業技術総合研究所の協力を得て、会員、機関、関係企業 12 社・1 機関参加のもと、関連 JIS の国際規格である ISO 8655（ピストン式容量測定機器）シリーズが改正されたことから、JIS 改正を見据えた ISO 規格の翻訳の必要性、次年度実施予定のピストン式ピペットの持ち回り試験方法等について、研究会を 2 回開催し、調査研究を行った。

④ 温度・熱物性分野に関する調査研究

温度・熱物性分野に関する課題解決、新たな技術の創出に貢献することを目的に、産業技術総合研究所の協力を得て、会員、大学、機関、関係企業 12 社・16 機関・大学参加のもと、温度、熱物性の計測技術・データ等に関する調査研究等のため専門家を招いた講演を兼ねた研究会を 2 回、見学会を 1 回開催した。

<講 演>

開催日	2024 年 6 月 27 日（木）
場 所	日本計量会館及びオンライン
テーマ	「電子エネルギー分布測定による固体表面の熱力学温度計測」
講 師	横浜市立大学理学部 大学院生命ナノシステム科学研究科 准教授 木下 郁雄氏
テーマ	「炭素繊維および人造黒鉛材料の熱膨張測定、さらに黒鉛化プロセス中の寸法変化について」
講 師	産業技術総合研究所 分析計測標準研究部門 上級主任研究員 岩下 哲雄氏
開催日	2025 年 2 月 25 日（火）
場 所	産業技術総合研究所及びオンライン

テーマ 「ベテルの熱物性計測技術紹介」

講 師 (株)ベテル ハドソン研究所副所長 羽鳥 仁人氏

<見学会>

開催日 2025 年 2 月 25 日 (火)

場 所 産業技術総合研究所 物質計測標準研究部門 熱物性標準研究グループ研究室

2. 規格の作成と普及に係る事業

(1) OIML（国際法定計量機関）勧告審議調査及び規格の策定と普及活動（受託事業）

本事業は、(一財)日本規格協会が経済産業省の委託を受け、同協会より本会が再委託を受け、実施した。

国際法定計量分野の規格等の審議体制の強化、OIML 勧告審議調査等に資するため、国際法定計量調査研究委員会を設け、OIML 国際勧告・文書等への対応を行った。

これら調査研究結果については、以下の内容項目を報告書に取りまとめ、経済産業省、日本規格協会へ提出した。

なお、報告書の内容項目、審議した国際勧告・文書等、出席した国際会議等及び海外調査は以下のとおりである。

<報告書内容項目>

まえがき

略語

第1章 国際標準化事業の概要

第2章 法定計量に関する国際標準化事業における委員会の活動

第3章 OIML等の活動

第4章 水素に関する海外調査報告

巻末資料

<審議した草案>

新規 D 「導電率測定の特雷サビリティ」 4WD

新規 R 「直流電力量計」 1WD

R51 「遠隔検定」に関する質問へのコメント

R76 「非自動はかり」 1. 1CD へのコメント

D31 「ソフトウェア制御計量器のための一般要件」

第 6 章構造修正へのコメント

新規 R 「接触型体温計」 1CD

R91 「自動車の速度測定用レーダー装置」 2. 1CD へのコメント

ISO/IEC 17020 「検査を実施する各種機関の運営に関する一般要求事項」 への
コメント

D11 「計量器に対する一般要求事項 — 環境条件」 1CD へのコメント

R51 「自動捕捉式はかり」 6WD へのコメント

D31 「ソフトウェア制御計量器のための一般要件」 1WD へのコメント

- R142 「自動屈折計」 2CD へのコメント
- R46 「電力量計」 2CD への投票・コメント
- JCGM GUM-5:202X 「測定における不確かさの表現ガイド－第5部：例」 1CD へのコメント
- 新規 R 「電気自動車用充電装置/EVSE」 1WD へのコメント
- R51 「自動捕捉式はかり」 7WD へのコメント
- R91 「自動車の速度測定用レーダー装置」 3CD へのコメント

<出席した国際会議>

第59回 CIML 委員会

日 程 2024 年 10 月 22 日～24 日

場 所 オンライン参加

第31回 APLMF 総会・関連セミナー

日 程 2024 年 11 月 6 日～8 日

場 所 台湾・台北

R51 「自動捕捉式はかり」 改正 PG 会議

日 程 2024 年 6 月 3 日～6 日

場 所 産総研会議室（経済産業省内）にてオンライン参加

R51 「自動捕捉式はかり」 改正 PG 会議

日 程 2024 年 11 月 13 日～14 日

場 所 産総研会議室（経済産業省内）にてオンライン参加

R51 「自動捕捉式はかり」 改正 PG 会議

日 程 2025 年 3 月 25 日～26 日

場 所 産総研会議室（経済産業省内）にてオンライン参加

D11 「計量器に対する一般要求事項－環境条件」 改正 PG 会議

日 程 2025 年 2 月 11 日～14 日

場 所 オンライン参加

D31 「ソフトウェア制御計量器のための一般要件」 改正 PG 会議

日 程 2025 年 3 月 4 日～5 日

場 所 ドイツ・ベルリン

R46 有効電力量計、G22 / Rxxx: 電気自動車用充電装置/EVSE /Rxxx: 電力量計一直流
PG 会議

日 程 2025 年 3 月 10 日～14 日

場 所 チェコ・プラハ

<海外調査>

OIML R139 (自動車用圧縮燃料ガスの計量システム) の改正及び計量器指令 (MID) への水素計量システム追加の必要性が欧州で議論されていることから、水素エネルギー利用取組が進むドイツ、イギリス、さらには R139 幹事国であるオランダを訪問し、R139 及び MID の改正動向、欧州の水素エネルギー利用状況等について関係者と意見交換を行ったほか、我が国からは JIS に規定したマスターメーター法について紹介を行った。

派 遣 日 2024 年 11 月 10 日 (日) ～17 日 (日)

訪 問 先 オランダ/VSL オランダ計量研究所

ドイツ/Rheonik 社

イギリス/NPL 国立物理学研究所

イギリス/テュフズード (TÜV SÜD)

参 加 者 大沢 紀和 (株)タツノ 研究開発部 次長

小林 誠司 (株)オーバル 研究開発部 次長

櫻井 茂 トキコシステムソリューションズ(株) 開発本部

新商品開発部 水素機器開発課 課長

高辻 利之 (一社) 日本計量機器工業連合会 常務理事

(2) ISO (国際標準化機構) 規格策定への参画

本年度は、次の国際規格案等の審議を行い、日本意見の反映に努めた。

<審議した国際規格案等>

TC28/SC2 ISO3171 (石油—自動パイプラインサンプリング) の延長リクエスト (CIB)

TC28/SC2 ISO/CD 23505 石油および液体石油製品_球形タンクの校正_外部電気光学測距
(EODR) 法 (CIB)

TC28/SC2 ISO 12917-1 CD stage スキップ (CIB)

TC28/SC2 ISO/NP 7507-7 石油及び液化石油製品—直立円筒状タンクの校正 第 7 部 3D
レーザースキャン (CIB)

TC28/SC2 マークハリソン氏の WG10 コンビナー再任 (CIB)

TC28/SC2 ISO/CD 3675 amd 1 原油及び鉱油製品—実験室における密度の測定方法—液体

比重計による方法 (CIB)

- TC28/SC2 ISO 7278-2「液体炭化水素－動的測定－容積計の実証システム－第2部：パイププルーバー」への修正提案 (CIB)
- TC28/SC2 スコープの追加について (CIB)
- TC28/SC2 ISO 3675「原油及び鉱油製品－実験室における密度の測定方法－液体比重計による方法」追補改訂ではなく改訂提案 (CIB)
- TC28/SC2 TC28/SC2/WG4 新コンビナー募集 (CIB)
- TC28/SC2 ISO9200 (Ed 2) (石油測定システム－粘性のある高温液体の計量) CD (原油及び液化石油製品－粘性炭化水素の体積定量) (DIS)
- TC28/SC2 ISO 12185 (Ed 2) (原油及び石油製品－密度の測定－振動U管法) (FDIS)
- TC28/SC2 ISO4266-5「石油および液体石油製品－自動法による貯蔵タンク内のレベルと温度の測定－第5部：船舶内の温度の測定」 (DIS)
- TC28/SC2 ISO4266-3 (Ed 2) 石油及び鉱油製品－自動法による貯蔵タンクの液位及び温度の測定－第3部：加圧貯蔵タンク（非冷蔵）の液位の測定 (DIS)
- TC28/SC2 ISO3170 (Ed 4)「石油－手動サンプリング」のプロジェクト (DIS)
- TC28/SC2 ISO4266-6 (Ed 2) 石油及び鉱油製品－自動法による貯蔵タンクの液位及び温度の測定－第6部：加圧貯蔵タンク（非冷蔵）の温度の測定 (DIS)
- TC28/SC2 ISO4266-5 (Ed 2)「石油及び鉱油製品－自動法による貯蔵タンクの液位及び温度の測定－第5部：船舶内の温度の測定」 (FDIS)
- TC28/SC2 ISO12917-1:2017/DAmD 1 (Ed 2)「石油及び液化石油製品－枕形タンクの校正－第1部：手動法」 (DIS)
- TC28/SC2 ISO4266-3 (Ed 2)「石油及び鉱油製品－自動法による貯蔵タンクの液位及び温度の測定－第3部：加圧貯蔵タンク（非冷蔵）の液位の測定」 (FDIS)
- TC28/SC2 ISO23505「石油および液体石油製品_球形タンクの校正_外部電気光学測距 (EODR) 法」 (DIS)
- TC28/SC2 ISO/TS21354:2020「混相流の測定」 (SR)
- TC28/SC2 ISO 7507-5:2000 (vers 4)「石油及び液化石油製品－直立円筒状タンクの校正－第5部：外部電子光学距離測定法」 (SR)
- TC28/SC2 ISO 11563:2003 (vers 4)「原油及び石油製品－バルクカーゴ輸送－パイプラインを満杯にするための指針」 (SR)
- TC28/SC2 ISO10336:1997 (vers5)「原油－水分の定量－カールフィッシャー電位差滴定法」 (SR)
- TC28/SC2 ISO 10337:1997 (vers 5)「原油－水分の定量－カールフィッシャー電量滴定」 (SR)
- TC28/SC2 ISO 11223:2004 (vers 4)「石油及び液体石油製品－直接静的測定－静圧タンクゲ

ージによる立て形貯蔵タンクの内容測定」(SR)

TC28/SC2 ISO 4269:2001 (vers 5) 「石油及び鉱油製品ー液量測定によるタンクの校正ー容積計を用いた増分法」(SR)

TC28/SC2 ISO 9029:1990 (vers 7) 「原油ー水分の定量ー蒸留法」(SR)

TC28/SC2 ISO 9030:1990 (vers 7) 「原油ー水分及び沈降物の定量ー遠心力法」(SR)

TC30/SC7 ISO 22158 「水量計の入/出力プロトコル及び電子的インタフェースー要求事項」登録認定機関の交代 (TMB)

TC30/SC7 ISO 4064-1 「冷温水用水道メーター 第1部 計量及び技術要求事項」(FDIS)

TC30/SC7 ISO 4064-2 「冷温水用水道メーター 第2部 試験方法」(FDIS)

TC30/SC7 ISO 4064-3 「冷温水用水道メーター 第3部 試験報告書の様式」(FDIS)

(4) JIS 化に関する調査 (受託事業)

①計量法に関する JIS 開発

本年度、本会内に次の委員会及び分科会を設置して、特定計量器4機種に関する現行4規格について、改正原案の作成及び改正原案の作成に向けた検討を行った。

<対象規格>

JIS B 8572-3:2011 燃料油メーターー取引又は証明用 第3部：微流量燃料油メーター

JIS B 7525-1:2018 密度浮ひょう

JIS B 7525-3:2018 浮ひょう型比重計

JIS B 7607:2024 自動捕捉式はかり

<委員会>

微流量燃料油メーターJIS 改正検討委員会

密度浮ひょう及び浮ひょう型比重計 JIS 原案作成委員会

自動捕捉式はかり JIS 原案作成委員会

<分科会>

密度浮ひょう及び浮ひょう型比重計 JIS 原案作成分科会

自動捕捉式はかり JIS 原案作成分科会

上記のうち、密度浮ひょう JIS、浮ひょう型比重計 JIS 及び自動捕捉式はかり JIS について以下の内容項目について取りまとめ、委託元の（一財）日本規格協会へ提出した。

<JIS B 7525-1:2018 密度浮ひょう>

- | | | |
|--------------|---------|----------|
| 1 適用範囲 | 2 引用規格 | 3 用語及び定義 |
| 4 目盛の単位 | 5 標準温度 | 6 最大許容誤差 |
| 7 調整に用いる表面張力 | 8 視定の方法 | 9 浸没 |

- | | | |
|-----------|---------------|-------|
| 10 材料及び製作 | 11 形状 | 12 目盛 |
| 13 誤差試験 | 14 膨張試験及び構造試験 | 15 表示 |

附属書 A (規定) 密度浮ひょうに関する表面張力の標準分類

附属書 JA (規定) 取引又は証明用の密度浮ひょう

附属書 JB (規定) 使用中検査

附属書 JC (規定) 電子式はかりの管理方法

附属書 JD (規定) 密度浮ひょうのけい部の直径

附属書 JE (参考) ポリタングステン酸ナトリウム水溶液の参考情報

附属書 JF (参考) JIS と対応国際規格との対比表

<JIS B 7525-3 : 2018 浮ひょう型比重計>

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| 1 適用範囲 | 2 引用規格 | 3 用語及び定義 |
| 4 目盛の単位 | 5 標準温度 | 6 最大許容誤差 |
| 7 調整に用いる表面張力 | 8 視定の方法 | 9 浸没 |
| 10 材料及び製作 | 11 形状 | 12 目盛 |
| 13 誤差試験 | 14 膨張試験及び構造試験 | 15 表示 |

附属書 A (規定) 浮ひょう型比重計に関する表面張力の標準分類

附属書 JA (規定) 取引又は証明用の浮ひょう型比重計

附属書 JB (規定) 使用中検査

附属書 JC (規定) 電子式はかりの管理方法

附属書 JD (参考) 浮ひょう型比重計の代表的な形状、寸法及び目盛

附属書 JE (参考) ポリタングステン酸ナトリウム水溶液の参考情報

附属書 JF (参考) JIS と対応国際規格との対比表

<JIS B 7607:2024 自動捕捉式はかり>

- | | | |
|--------|--------|-------------|
| 1 適用範囲 | 2 引用規格 | 3 用語及び定義 |
| 4 計量要件 | 5 技術要件 | 6 電気式はかりの要件 |
| 7 試験方法 | 8 検査 | |

附属書 A (規定) 自動捕捉式はかりの試験手順

附属書 JA (規定) 取引又は証明用の自動捕捉式はかりの要求事項

附属書 JB (規定) 使用中検査

附属書 JC (規定) 検定に使用する器具

附属書 JD (規定) 自動捕捉式はかりの修理

附属書 JE (規定) 検定を効率化する試験方法

附属書 JF (参考) 検定用表示装置

附属書 JG（参考）JIS と対応国際規格との対比表

このほか、以下の内容項目で全機種に関する JIS 開発事業の概要を成果報告書に取りまとめ、委託元の（一財）日本規格協会へ提出した。

<計量法に関する JIS 開発成果報告書>

- | | | |
|-------------|----------------------|-------|
| 1 事業目的・事業概要 | 2 令和 6 年度の実施体制及び事業概要 | |
| 3 事業実施内容 | 4 今後の検討事項 | 5 まとめ |

②日本規格協会公募事業による JIS の改正

本会内に次の委員会を設置して、以下の内容項目について JIS 改正案を取りまとめ、（一財）日本規格協会へ提出した。

<JIS B 7610 : 2012 重錘形圧力天びん>

- | | | |
|--------|------------|------------|
| 1 適用範囲 | 2 引用規格 | 3 用語及び定義 |
| 4 記号 | 5 計量上の要求事項 | 6 技術上の要求事項 |
| 7 表示 | 8 関係文書 | |

附属書 A（規定）重錘形圧力天びんの試験方法

附属書 B（参考）重錘形圧力天びんの不確かさ

附属書 JA（参考）JIS と対応国際規格との対比表

<JIS B 7616 : 2013 重錘形圧力天びんの使用方法及び校正方法>

- | | | |
|------------------|---------------|-----------------|
| 1 適用範囲 | 2 引用規格 | 3 用語及び定義 |
| 4 記号 | 5 使用環境 | 6 使用上必要な設備及び測定器 |
| 7 使用準備 | 8 使用方法 | 9 管理・保管 |
| 10 発生圧力値の計算 | 11 発生圧力値の不確かさ | |
| 12 重錘形圧力天びんの校正方法 | | |

附属書 A（参考）重錘形圧力天びんの発生圧力値の計算に必要な特性値

附属書 B（参考）ピストン・シリンダの有効断面積の算出

附属書 C（参考）重錘形圧力天びんの発生圧力値の不確かさ要因

（４）JIS ハンドブック機械計測の改訂協力

JIS ハンドブック機械計測の改訂を行うため、（一財）日本規格協会内に設置された編集委員会に、本会から専門家を委員として派遣し、改訂作業に協力した。

3. 計量器の普及・広報に係る事業

(1) INTERMEASURE 2024 (第31回計量計測展) の開催

INTERMEASURE 2024 (第31回計量計測展) は、2024年9月18日(水) から20日(金) の3日間、東京国際展示場(東京ビッグサイト)において開催され、成功裡に無事終了した。

今回は、出展者数69社・団体・機関、出展小間数176小間の参加を得、また来場者は10,000名を数え、活発な商談と情報交換が行われた。

開催結果については、開催結果報告書にまとめ、全会員へ配布した。展示会の概要は以下のとおりである。

名 称	INTERMEASURE 2024（第 31 回計量計測展）		
テ ー マ	「#はかる～はかるとつくるサステナブルな未来～」		
会 期	2024 年 9 月 18 日（水）～20 日（金）		
会 場	東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）東 2 ホール		
開催規模	出展者数：69 社・団体・機関・研究室（前回 64 社）		
	出展小間数：176 小間（前回 160 小間）		
来 場 者	10,741 名		
	9 月 18 日（水）	3,483 名	
	9 月 19 日（木）	3,423 名	
	9 月 20 日（金）	3,835 名	
後 援	経済産業省、文部科学省、環境省、産業技術総合研究所 （独）製品評価技術基盤機構、（独）日本貿易振興機構		
協 賛	（一財）機械振興協会等、63 の団体、機関		
併 催 展	第 12 回総合検査機器展（主催：日本検査機器工業会）		
	SENSOR EXPO JAPAN 2024（主催：産経新聞社）		
	IFPEX 2024（主催：（一社）日本フルードパワー工業会／産経新聞社）		
	地盤技術フォーラム 2024（主催：産経新聞社 ほか）		
併催事業	第 4 回次世代森林産業展（主催：産経新聞社）		
	基調講演	計測標準フォーラム	
	NMIJ 法定計量セミナー	専門セミナー	
	次世代計測フォーラム	企画展示「電力・ガス・水道のスマートメーター」	
	特別企画「#はかる 第 1 回はかる-1 グランプリ」		

<INTERMEASURE 2024 実行委員会（敬称略）>

委員長	榎本 晋虎	(株)島津製作所	コーポレート・コミュニケーション部長
副委員長	熊坂 憲潔	(株)共和電業	営業戦略部長
〃	田村 旬	大和製衡(株)	経営企画室室長
〃	古屋 貢	東京計装(株)	ライフサイエンス事業推進部 次世代事業開発プロジェクト部長
幹事	石川 栄樹	(株)オーバル	マーケティング部部門部長
〃	峯 昌弘	長野計器(株)	営業本部営業戦略部営業企画課課長
委員	福田 朋宏	アズビル金門(株)	経営企画部広報グループマネジャー
〃	澤野 啓二	アンリツ(株)	インフィビスカンパニー グローバル事業推進本部 I ブランディング部参与
〃	山下 文平	(株)インダ	マーケティング商品企画部 商品企画二課第二係係長
〃	小島 真美	(株)エー・アンド・デイ	支援課
〃	関野 貴之	エンドレスハウザージャパン(株)	マーケティング部部長
〃	金本 啓嗣	鎌長製衡(株)	営業本部部長
〃	寶田 俊介	(株)クボタ	精密機器営業部販売企画課担当課長
〃	三堀 愛	新光電子(株)	国内営業部営業企画室
〃	徳島 敦之	(株)ソニック	工業機器部グループリーダー
〃	秦 淳子	(株)タツノ	営業本部営業部課長
〃	齋藤 春海	(株)田中衡機工業所	営業部営業管理課課長
〃	工藤 育宏	(株)チノー	営業本部営業戦略室研修・広報課係長
〃	菅原 得也	トキコシステムソリューションズ(株)	総務部広報・採用課
〃	下田 英司	日本フローセル製造(株)	取締役工場長

<INTERMEASURE 2024 出展企業・団体・機関・研究室>

旭計器工業(株)	アンリツ(株)	(株)インダ
(株)エー・アンド・デイ	(株)オーバル	柏原計器工業(株)
鎌長製衡(株)	(株)共和電業	(株)クボタ
(株)ケツト科学研究所	(有)三協インターナショナル	JFE アドバンテック(株)
(株)島津製作所	(株)昭和測器	神栄テクノロジー(株)
新光電子(株)	(株)ソニック	(株)タツノ
(株)田中衡機工業所	(株)タニタ	(株)チノー
東京計器(株)	東京計装(株)	
トキコシステムソリューションズ(株)		(株)トミナガ

長野計器(株)	(株)ナガノ計装	日本フローセル(株)
(一社) 日本計量振興協会	兵田計器工業(株)	(株)フクダ
(株)双葉測器製作所	(株)村上衡器製作所	大和製衡(株)
ヤマヨ測定機(株)	(株)大手技研	
ゲルハルトジャパン(株)	高分子計器(株)	
サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)		
Supmea Automation Technology Co.,Ltd		
産業技術総合研究所	santec	
湿度、水分計測・センサ研究会		(株)センシズ
中国衡器協会	(株)ディルウィングス	
(株)テクトロニクス&フルーク	(株)テクネ計測	
トウプラスエンジニアリング(株)		東林マテリアル(株)
(株)七星科学研究所	南京朗奕機械製造有限公司	日本エイ・ヴィー・シー(株)
(一財) 日本品質保証機構	ネオアーク(株)	
HAENNI Instruments Inc.	(株)ビートセンシング	(株)ビッツ
マキシメーター・フルード・テクノロジーズ(株)		
茨城大学 工学部機械システム工学専攻		
東京電機大学 理工学部理学系 有機・高分子化学研究室		(株)AI 技研
(株)信州 TLO (信州大学 工学部)		
(株)信州 TLO (信州大学 繊維学部／農学部)		
(株)信州 TLO (公立諏訪東京理科大学／宇都宮大学)		
東京電機大学	東京都立大学 田川研究室	
東京都立大学 松井研究室	日本原子力研究開発機構	

(2) お笑いコンテスト「#はかる 第1回はかる-1 グランプリ」の開催

INTERMEASURE 2024 の特別企画として、お笑いコンテスト「#はかる 第1回はかる-1 グランプリ」を協賛企業の協力を得て開催した。「はかる」を取り入れたネタにこだわったお笑いコンテストで、“はかる-1 王者”は参観者の笑いや拍手を「はかって」選出することとし、観覧者の拍手を計測した結果 92.2dB となったジグザグジギーが優勝した。

また、協賛企業9社の動画広告を会場で開催直前や INTERMEASURE のセミナーの前後など、INTERMEASURE の会期3日間にわたって放映した。

なお、当日録画した動画を編集し、2024年10月5日～12月27日の期間限定で、本会 YouTube チャンネル「メジャーチャンネル」で公開し、5,222回視聴された。

開催結果については、INTERMEASURE 2024 開催結果報告書に掲載したほか、本コンテストに関する開催結果報告書(PDF)も作成し、協賛企業に配信した。

名 称	#はかる 第1回はかる-1 グランプリ	
日 時	2024年9月18日（水）12時～12時50分	
会 場	東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）東2ホール INTERMEASURE 2024 展示会場内「はかるプラザ」	
主 催	（一社）日本計量機器工業連合会	
協賛企業	会員企業 13 社	
	リオン(株)	(株)島津製作所
	アンリツ(株)	エンドレスハウザー ジャパン(株)
	(株)オーバル	(株)クボタ
	(株)ケツト科学研究所	(株)チノー
	東京計装(株)	(株)イシダ
	(株)田中衡機工業所	日本フローセル(株)
	大和製衡(株)	
計測協力	リオン(株)	
企画運営	(株)サンケイアイ	
運営制作	(株)ニッポン放送	(株)ミックスゾーン
出演者（五十音順）		
	きしたかの	サスペンダーズ
	ジグザグジギー	寺田寛明
	パーパー	ひつじねいり

（３）計量計測製品 DB の改定に係る検討

昨年度発行した 2024 年版計量計測機器総覧を INTERMEASURE 2024 の参観者へ配布するなどして、需要喚起に資した。

また、本会ホームページのリニューアルに合わせ、広報委員会において計量計測製品 DB の編集方針について協議を開始した。

（４）広報誌「はかる」の刊行

はかる編集 WG にて行ってきた検討を基に、掲載コンテンツ、表紙を含むレイアウト等を本年度より刷新した。この刷新に伴い、全誌面をカラー化し、横書きとしたほか、年 3 回（5 月、10 月、1 月）の発行とした。

刊行の目的は計量計測業界、計量計測技術及び製品等の情報を会員、ユーザー等へ広報し、コミュニケーションの促進を図るためであり、以下のとおり刊行した。（敬称略）

No. 154 (2024 年 5 月 20 日発行)

ウチのエント	File 01 (株共和電業
ランス紹介	File 02 (株タツノ
します！	
SPECIAL	「はかる」が全面リニューアル
CONTENTS	
こんなところで	ガスメーターはどこ？
「はかる」を発見	日本ガスメーター工業会
会員企業紹介	(株)ケツト科学研究所
	長野計器(株)
&TECH-	JFE アドバンテックの環境への取組
NOLOGY	古瀬 大規 JFE アドバンテック(株) 計量事業部東京営業部副部長
ESSAY	Vol. 1 めくるめく高級腕時計の世界
	沼本 有佳子 大和製衡(株) 経営企画室係長
2024 年度 計工連事業紹介	
データは語る	Vol. 0 「データは語る」コーナーについて
KEIKOREN DIARY／あとがき	

No. 155 (2024 年 10 月 20 日発行)

ウチのエント	File 03 (株インダ
ランス紹介	File 04 (株クボタ
します！	
SPECIAL	「INTERMEASURE 2024」を開催しました
CONTENTS	
会員企業紹介	(株)田中衡機工業所
	(株)チノー
&TECH-	スイスにおける検定作業同行記
NOLOGY	(一社) 日本計量機器工業連合会 事務局
ESSAY	Vol. 2 旅のお供に手放せない相棒ドローン
	～鳥の視点で絶景を眺めよう
	榎本 晋虎 (株)島津製作所
	コーポレート・コミュニケーション部長
世界の「はかる」	INTERMEASURE 2024
展示会から	HAENNI Instruments Inc.
データは語る	Vol. 1 「業務における生成 AI の活用について」

No. 156 (2025 年 1 月 20 日発行)

ウチのエント	File 05 アンリツ(株)
ランス紹介	File 06 (株)オーバル
します！	
年頭所感	山本 靖則 (一社) 日本計量機器工業連合会 会長 須賀 千鶴 経済産業省 製造産業局産業機械課課長
こんなところで	第 1 回はかる-1 グランプリ計測レポート
「はかる」を発見	リオン(株)
会員企業紹介	東京計装(株) (株)ミットヨ
&TECH-	アジア太平洋地域の法定計量システム
NOLOGY	(株)ケツト科学研究所 技術部顧問 松本 毅
ESSAY	Vol. 3 日韓中計量測定協力セミナー 発表内容とご質問等に関して 全国自動はかり検定(株) 代表取締役社長 山本 浩之
世界の「はかる」	Pack Expo 2024 アメリカ シカゴ
展示会から	沼本 有佳子 大和製衡(株) 経営企画室係長
データは語る	Vol. 2 「リモートワークについて」

KEIKOREN DIARY／あとがき

(5) 計量計測機器マニュアルの改訂

流量計の原理・構造等を機種別に取りまとめた「流量計の実用ナビ ～ 初心者からエキスパートまで～」を編集し、ユーザーをはじめ関係者の利活用に供してきている。同マニュアルは、前回発行から 10 年以上が経過し、既に在庫は無く、内容を最新の情報に刷新するため、「流量計マニュアル編集委員会（委員長：古市 紀之氏／産業技術総合研究所 計量標準総合センター 工学計測標準研究部門 液体流量標準研究グループ長）」を設置し、改訂作業を進めた。

発行予定：2025 年 6 月末

発行部数：3,000 部

(6) 計量計測機器マニュアル等の頒布

会員各社の協力により作成したはかり、レベル計及び健康管理用計測機器マニュアル並びに計量計測機器に係る規格類（JMIF 規格）を頒布し、ユーザー各位の計量計測機器の適切な

選定と最適な使用、保守管理等に資した。

(7) 学習教材の制作及び配布

産業や家庭における計量機器の役割と重要性を伝え、浸透を図ることを目的に、小学校 3 年生向けのオリジナル学習教材「はかる！ってなんだろう？ はかりのやくわり」（DVD、生徒用冊子、教師用手引書）を制作し、希望する学校に配布した。学習教材の配布を希望した学校において、2025 年度の授業で使用される。

(8) 新・計工連マークの検討

2023 年度の第 55 回理事会にて新・計工連マークの制定について提案があったことから、本年度の広報委員会にて検討を行ってきた。新・計工連マークの仕様書が理事会で承認され、2 月から 3 月にかけてマーク案を募集した。第 12 回広報委員会にて 3 案まで候補を絞り込み、会員への意見募集と第 61 回理事会での検討により 1 案が選定された。2025 年 5 月 19 日開催の第 14 回定時総会にて制定、発表を行う予定である。

(9) JEMIMA 広報委員会との意見交換会の開催

(一社) 日本電気計測器工業会 (JEMIMA) の提案により、JEMIMA 広報委員会と本会広報委員会の意見交換会を開催した。本会からは委員 4 名と事務局、JEMIMA からは委員 4 名と事務局が参加し、それぞれの委員会活動の紹介や事前質問の回答を行うとともに、活発な意見交換を行った。

日 時 2025 年 3 月 25 日 (火) 13 時 30 分～15 時 30 分

場 所 JEMIMA 計測会館及びオンライン

4. 市場動向等調査研究に係る事業

(1) 計量計測機器の需要動向調査

市場開発委員会では特定産業分野を取り上げて、その産業分野における計量計測機器需要動向を調査把握し、市場ニーズへの対応に資してきている。

本年度は、海洋ビジネスにおける計量計測機器の需要動向をテーマに関係機関へのヒアリング、資料の収集及び文献調査等々を行い、次の内容項目で調査結果を取りまとめ、全会員に配布した。

＜海洋ビジネスにおける計量計測機器の需要動向報告書項目＞

第1章 はじめに

第2章 海洋ビジネスの概要、動向

第3章 生物資源（ブルーバイオテクノロジー、海洋生物医薬品を含む）

第4章 非生物資源

第5章 海洋エネルギー

第6章 海洋開発（海洋ロボティクスを含む）

第7章 海洋保全（水処理、海洋汚染を含む）

第8章 防災、気象（海象）、観測

第9章 まとめ

参考資料

(2) 定年延長の実態に係る調査

労務委員会では、毎年、会員の労務関係諸規定の見直しの参考に資するため、これら規定について業界の実態を調査し、報告書に取りまとめ会員へ配布してきている。

本年度は、「定年延長の実態」をテーマに調査を実施し、結果を取りまとめ、会員へ配布して各社の労務対策の参考に供した。

(3) 景気・業況・施策等に対する会員の意見調査

本会では、会員の景気・業況・政府施策等に対する現況、考え方、意見等を伺い、収集された情報、意見等を企業経営資料に供するとともに、本会の事業活動への反映、また必要に応じて関係機関等へ要望していくため、定期的に調査を実施し、集計結果を発表してきている。

本年度も2回の調査を実施し、結果を取りまとめ、会員へ配布して各社の業況判断の参考に資した。

5. 計量制度に係る調査研究事業

(1) 指定検定機関認定制度への対応

計量法政省令の改正により、主として器差検定のみを実施する指定検定機関制度が新設され、計量器製造事業者であっても要件を満たせば検定実施機関として指定を受けることが可能となった。

本会会員では、既に8社が指定検定機関の指定を受け、さらに複数の会員が申請に向けた準備を進めている。

これを支援するため、本会ばかり部会・計量制度検討委員会の下に「指定検定機関に係る検討WG」を設置し、業界意見等の取りまとめ、円滑な指定に向けて必要に応じて経済産業省と調整、情報収集等を行った。

(2) 自動捕捉式はかりの検定用擬似材料の開発、作成に係る検討

自動捕捉式はかりの型式承認及び検定においては、実材料による試験を原則としているが、実材料を使用できない場合、適切な擬似材料を用いることも可能となったことから、当該会員企業から擬似材料の標準化と供給に関する要望に対応するため、ばかり技術委員会の下に擬似材料標準仕様作成WGを設置し、擬似材料の開発を進めている。

本年度は、産業技術総合研究所に技術コンサルティングを依頼し、自動はかりの計量性能の検査に用いる擬似材料の評価のための技術的支援契約を締結し、試作、頒布に向けた擬似材料の開発を継続する。

6. 高度化に係る事業

(1) 「ヒューマンエラーの理論と対策セミナー～ミスに強い組織を作る！～（事務担当者編）」の開催

AIを含むデジタル化が進む中、人が関わる全ての場面でヒューマンエラーによる問題が発生している。ヒューマンエラーを防ぐには、小手先の工夫だけでなく、作業の構造や、マニュアル、書式レイアウト、マネジメントといった多面的な対策が必要となる。

事務ミスが大きな損失となる時代に、その理論や実践的な対策例を紹介して、ヒューマンエラー対策の全体像を解説するセミナーを開催した。

日 時	2024年7月19日（金）14時30分～16時30分
場 所	日本計量会館及びオンライン
受 講 者	23社 47名
講 師	産業技術総合研究所 人工知能研究センター NEC-産総研人工知能連携研究室 副室長 中央大学大学院理工学研究科客員教授 中田 亨氏

(2) 計量計測機器業界の求人のための学内業界セミナーの開催

優秀な理工系学生の採用を図る観点から、本年度は3大学で学内業界セミナーを開催し、計量計測機器業界に関心を持つ学生に対して業界の紹介を行ったほか、企業・機関10社がPRを行った。

<開催大学>

山梨大学 2024年10月29日（火）
湘南工科大学 2024年11月6日（水）
福岡工業大学 2024年12月5日（木）

<参加企業・機関>

アズビル金門㈱ ㈱オーバル ㈱共和電業 ㈱ケツト科学研究所 コモタ㈱ ㈱タツノ
㈱チノー 東京計装㈱ トキコシステムソリューションズ㈱ 日本電気計器検定所

(3) 計量計測機器製造業高齢者雇用推進事業(受託事業)

(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構では、高齢者雇用支援の一環として、産業別に高齢者雇用を推進する産業別高齢者雇用推進事業を実施しており、同機構からの委託を受け、「計量計測機器製造業高齢者雇用推進事業」を令和5年度から令和6年度にかけて実施した。

昨年度に引き続き高齢者雇用推進委員会を設置し、昨年度の調査結果を踏まえて計量計測機器製造業における高齢者雇用の推進方策をまとめたガイドラインを発行した。ガイドラインは全会員へ送付したほか、INTERMEASURE 2024 会場等での配布、ホームページ上での公開を行った。

ガイドライン発行後、本ガイドラインの普及・啓発活動として、東京と京都でそれぞれ普及啓発セミナーを開催した。東京で開催したセミナーは録画を行い、本会 YouTube チャンネル「メジャーチャンネル」にて公開した。

また、本年度の結果を報告書にまとめ、全会員に閲覧いただけるよう、PDF データをホームページに掲載した。

＜計量計測機器製造業 高齢者の活躍に向けたガイドライン＞

はじめに

本書の構成

- I. 計量計測機器製造業における高齢者の活躍に向けた考え方
- II. 計量計測機器製造業における高齢者の活躍を推進するための指針
- III. アンケート調査結果
- IV. ヒアリング調査結果
- V. 参考資料

＜計量計測機器製造業・高齢者雇用普及啓発セミナー（東京開催）＞

日 時 2024 年 10 月 31 日（木）15 時～16 時 30 分

場 所 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン（Zoom ウェビナー）

受 講 者 10 社 17 名

プログラム

テ ー マ 「計量計測機器製造業高齢者の活躍に向けたガイドライン ～調査結果について～」

講 師 (株)日本能率協会総合研究所 経営ソリューション研究部 主任研究員
福田 和久氏

テ ー マ 「シニアがいつそう輝く計量計測機器製造業をめざして」

講 師 東京学芸大学 名誉教授 内田 賢氏

テ ー マ 「制度並びにサービス紹介」

講 師 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 東京支部 統括 伊勢 文博氏

※本セミナーは録画を行い、2024 年 11 月 15 日（金）から本会 YouTube チャンネル「メジャーチャンネル」にて公開した。

＜計量計測機器製造業・高齢者雇用普及啓発セミナー(京都開催)＞

日 時 2024 年 11 月 14 日 (木) 13 時～14 時 30 分

場 所 ホテル エルシエント京都八条口

受 講 者 8 社 8 名

プログラム

テ ー マ 「計量計測機器製造業高齢者の活躍に向けたガイドライン ～調査結果について～」

講 師 (株)日本能率協会総合研究所 経営ソリューション研究部 主任研究員
福田 和久氏

テ ー マ 「シニアを職場で欠かせない戦力とするために」

講 師 東京学芸大学 名誉教授 内田 賢氏

テ ー マ 「制度並びにサービス紹介」

講 師 (独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構
高齢者雇用推進・研究部 産業別雇用推進課 柿添 大暢氏

＜令和 6 年度計量計測機器製造業高齢者雇用推進事業報告書項目＞

第 1 章 計量計測機器製造業高齢者雇用推進事業の概要

第 2 章 令和 6 年度事業の概要

第 3 章 追加分析～生きがい尺度の分析結果～

【参考資料】 高齢者雇用推進セミナー アンケート

(4) 業界別人材確保オーダーメイド型支援事業

(公財) 東京しごと財団では、東京都と連携し、業界内の状況に精通する業界団体を通じて中小企業の人材確保に関する支援を実施している。令和 5 年度は、業界団体の課題やニーズに応じて支援メニューを選択する「業界別人材確保オーダーメイド型支援事業」を行うこととしており、本会がその支援団体に選定された。

本年度は 1 支援企業あたり 5 回のコンサルティングが行われたほか、全会員を対象としたセミナーの開催 (全 2 回)、業界 PR 動画の制作、さらに、取組事例をまとめた好事例集の作成・配布等が行われた。

＜コンサルティング＞

採用や人事制度、社員の定着等に関するコンサルティングを以下の会員企業 10 社が受けた。

アトセンス(株)	(株)昭和測器	(株)東日製作所	(株)ナガノ計装
(株)ニシベ計器製造所	(株)ノーケン	(株)フクダ	
(株)双葉測器製作所	ヤマヨ測定機(株)	(株)ワーク衡業	

<セミナー>

日 時 2024年7月17日(水) 14時30分～16時30分

場 所 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン

受 講 者 28社 42名

テ ー マ 「企業理念からデザインする人材採用術」

講 師 橋本 祐造氏

(株)RECOMO 代表取締役 CEO

日 時 2024年10月10日(木) 14時～16時15分

場 所 Fabbit 会議室 丸の内及びオンライン

受 講 者 18社 26名

テ ー マ 「～過渡期を迎えた日本型雇用、今やるべきこと～

ここに一手を！進む少子化・人材確保術」

講 師 小澤 明人氏

リッチピクチャーズ(株)

キャリアファシリテーショングループ プロデューサー

<業界 PR 動画>

本会公式 YouTube チャンネル「メジャーチャンネル」に以下の動画を掲載した。

業界 PR 動画【(一社) 日本計量機器工業連合会】

<https://www.youtube.com/watch?v=tn0c5TUJeiY>

(5) 計量法解説講習会「計量法の基本から最新の政省令改正まで」の開催

会員企業の経営、事業運営に大きく係る計量法について、法制度全般の仕組み、体系、条文の読み方、意味等を基礎から応用まで理解するために、さらに、計量法関係政省令の改正について最新の内容を詳しく解説するための講習会を東京と大阪で開催した。

<東京開催>

日 時 1 日目 2024年7月4日(木) 10時～17時

2 日目 2024年7月5日(金) 9時30分～16時30分

場 所 日本計量会館

受 講 者 23社・団体 30名(会員：14社・団体 21名、会員外：9社 9名)

<大阪開催>

日 時 1 日目 2024年8月1日(木) 10時～17時

2 日目 2024年8月2日(金) 9時30分～16時30分

場 所 ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター

受 講 者 15 社 21 名（会員：9 社 14 名、会員外：6 社 7 名）

< 講 師（東京、大阪とも共通） >

計量事務所エル・メット 代表／

元産業技術総合研究所 法定計量科長 山口 詩希鬼氏

みかづき計量管理事務所 一般計量士 小島 祐子氏

（一社）日本計量機器工業連合会 顧問 小島 孔氏

< プログラム（東京、大阪とも共通） >

1 日目 ①計量法とは

②計量単位

③商品量目・定期検査等

④計量器の規制[製造等]

⑤計量器の規制[検定等]

2 日目 1 日目の復習

⑤計量証明と計量管理のつづき

⑥計量証明と計量管理

計量法政省令改正に関する解説 ～ 計量器産業への影響と対応 ～

（6）はかり技術者養成セミナーの開催

はかり技術委員会では、自動はかり（ホップースケール、自動捕捉式はかり、充填用自動はかり、コンベヤスケール）を取り上げ、これらはかりの原理、構造、アプリケーション例、ロードセル等々の理解向上、若手技術者のスキルアップを図るため、以下の内容で「はかり技術者養成セミナー」を東京及び大阪で開催した。

< 大阪会場 >

日 時 2024 年 10 月 4 日（金）9 時 45 分～16 時 45 分

場 所 新大阪丸ビル新館

受 講 者 8 社・機関 34 名

< 東京会場 >

日 時 2024 年 10 月 18 日（金）10 時～17 時

場 所 日本計量会館

受 講 者 13 社・機関 24 名

< プログラム（東京・大阪共通） >

テ ー マ 最新の計量制度について

講 師 (株)クボタ 精密機器技術部フェロー 瀬川 浩一氏

テ ー マ	ロードセル（質量・力検出の原理およびその応用）
講 師	スペクトリス㈱ ホッティング・ブリュエル・ケアー事業部 インプロセス リージョナルセールスマネージャー／日本・韓国 鈴木 秀行氏
テ ー マ	コンベヤスケール、コンスタントフィードウェア
講 師	大和製衡㈱ 産機技術部産機設計課 主任 岡原 克浩氏
テ ー マ	ホッパースケール
講 師	鎌長製衡㈱ 自動化システム部係長 石橋 昂大氏
テ ー マ	自動重量選別機
講 師	㈱エー・アンド・デイ 第1設計開発本部第10部課長 小岩井 淳志氏
テ ー マ	充填用自動はかり
講 師	㈱インダ 第一開発部 計量開発一課 主任技師 影山 寿晴 氏

（７）液体用及び気体用流量計の校正方法に関する JIS 解説セミナーの開催

流量計の校正と不確かさの基礎紹介、液体用及び気体用流量計の校正及び試験に関する技術レベルの向上、JIS 規格の理解促進を図るため、産業技術総合研究所の協力を得て、「液体用及び気体用流量計の校正方法に関する JIS 解説セミナー」を開催した。

日 時	2024 年 12 月 20 日（金）10 時～16 時 50 分
場 所	日本計量会館
受 講 者	13 社・機関 28 名
テ ー マ	流量計の校正と不確かさの基礎
講 師	産業技術総合研究所 工学標準研究部門 テクニカルスタッフ 寺尾 吉哉氏
テ ー マ	JIS B7552「液体用流量計の校正方法及び試験方法」の概要
講 師	産業技術総合研究所 工学標準研究部門 気体流量標準研究グループ長 土井原 良次氏
テ ー マ	演習「JIS B7552 に基づく液体用流量計の校正」
講 師	産業技術総合研究所 工学標準研究部門 液体流量標準研究グループ長 土井原 良次氏
テ ー マ	JIS B7556「気体用流量計の校正及び器差試験」の概要
講 師	産業技術総合研究所 工学標準研究部門 上級主任研究員 森岡 敏博氏
テ ー マ	演習「JIS B7556 に基づく気体用流量計の校正」
講 師	産業技術総合研究所 工学標準研究部門

上級主任研究員 森岡 敏博氏

(8) 流量計技術者養成セミナーの開催

流量計技術委員会では、流量計の計測原理、基本構造、機種別解説、機種の選定と正しい使い方、保守・点検方法、トラブルシューティング等々、基礎から応用までの理解促進を図るため、流量計の製造及び販売等に携わる若手社員を対象に、以下の内容で「流量計技術者養成セミナー」を開催した。

日 時 1 日目 2025 年 2 月 18 日 (火) 10 時～16 時 20 分

2 日目 2025 年 2 月 19 日 (水) 10 時～16 時 30 分

場 所 日本計量会館及びオンライン

受 講 者 12 社 41 名

プログラム／1 日目

テ ー マ 流量計測概論

講 師 (株)オーバル 研究開発部部門部長 若松 武史氏

テ ー マ 容積流量計

講 師 (株)オーバル 研究開発部研究開発一グループ課長 内田 勝一氏

テ ー マ 渦流量計

講 師 (株)オーバル 技術部技術一グループ主任 秋山 英樹氏

テ ー マ タービン流量計

講 師 トキコシステムソリューションズ(株)

流体制御設計部流量計設計課課長 粕谷 晃夫氏

テ ー マ 超音波流量計

講 師 東京計器(株) 計測機器システムカンパニー

技術部カスタマ技術課 藁澤 光秋氏

テ ー マ 開水路流量計

講 師 JFE アドバンテック(株) 水環境事業部技術課課長 笹田 佳彦氏

プログラム／2 日目

テ ー マ 流量計の校正方法とトレーサビリティ

講 師 産業技術総合研究所 計量標準総合センター

工学計測標準研究部門 副部門長 嶋田 隆司氏

テ ー マ 面積流量計

講 師 東京計装(株) 面積流量計技術部課長代理 瀬尾 彰宏氏

テ ー マ 差圧流量計

講 師 島津システムソリューションズ(株) 技術部課長 緑川 淳氏

テ ー マ	電磁流量計
講 師	横河電機(株) 開発統括部流量計部開発 1 課 1 グループ 川鍋 真人氏
テ ー マ	質量流量計〈サーマル式〉
講 師	アズビル(株) アドバンスオートメーションカンパニー CP 開発部 7 グループ課長代理 舘山 哲也氏
テ ー マ	質量流量計〈コリオリ式〉
講 師	エンドレスハウザー ジャパン(株) サービス部 仁科 好雄氏

(9) レベル計測入門セミナーの開催

レベル計技術委員会では、レベル計の保全、設備工務及び製造、販売担当者等を対象に、レベル計の測定原理、構造、仕様、選定方法、使用方法、トラブルシューティング等、基礎から応用までを幅広く解説する「レベル計測入門セミナー」を開催した。

日 時	1 日目 2024 年 10 月 24 日 (木) 10 時～16 時 45 分
	2 日目 2024 年 10 月 25 日 (金) 10 時～16 時 30 分

場 所 新大阪丸ビル新館「606 会議室」

受 講 者 11 社 20 名

プログラム／1 日目

テ ー マ	レベル計概論、レベル計の選定方法
講 師	エンドレスハウザージャパン(株) マーケティング部長 関野 貴之氏
テ ー マ	フロート式レベル計 (ガイドパイプ式) ※レベルスイッチも含む
講 師	(株)ノーケン 経営企画室課長 久保川 祐介氏
テ ー マ	フロート式レベル計 (マグネットフロート式) ディスプレイサ式レベル計 (浮力比例式)
講 師	東京計装(株)技術本部液面計技術部長 綱脇 賢治氏
テ ー マ	フロート式レベル計 (巻取式) ディスプレイサ式レベル計 (サーボバランス式)
講 師	エンドレスハウザー山梨(株) 技術課マネージャー フリッシュクネヒト アンドレアス氏
テ ー マ	差圧・圧力式レベル計
講 師	日本エマソン(株) MSOL ビジネスユニットプロダクトマーケティング グループエキスパート 加藤 守氏
テ ー マ	投込圧力式レベル計
講 師	JFE アドバンテック(株) 水環境事業部技術部副課長 澤邊 祐樹氏

プログラム／2 日目

テ ー マ	超音波式レベル計
講 師	(株)ノーケン 経営企画室課長 久保川 祐介氏
テ ー マ	電波（マイクロウェーブ）式レベル計
講 師	東京計器(株) 計測機器システムカンパニー 技術部カスタマ技術課 稲田 顕氏
テ ー マ	レベルスイッチ（振動式）
講 師	エンドレスハウザージャパン(株) マーケティング部マネージャー 安藤 裕幸氏
テ ー マ	レベルスイッチ（パドル式・静電容量式）
講 師	関西オートメーション(株) 技術部課長 老後 宏信氏
テ ー マ	重量式レベル計
講 師	(株)共和電業 商品開発部変換器グループ主任 野崎 俊也氏

（10）諸外国の法定計量制度に係るデータベースの構築

会員企業の海外市場の開拓、進出支援に資するため、国別・地域別の法定計量制度、認証制度、輸出手続き等々に係る情報資料を収集し、データベースの構築を行っている。

本年度は、データベースサイトのリニューアルを行ったほか、国際事業委員会及び諸外国の法定計量制度に係るデータベース構築 WG 委員を対象に、各国の法定計量に関する動向について紹介するニュースレターの配信を開始した。

7. 国際協力・交流に係る事業

(1) ICW (International Conference of Weighing) 2026 の開催準備

2020 年度に、CECIP から情報交換、ネットワーク創り、業界のプレゼンス向上を目的とした ICW (International Conference of Weighing) の開催が提案され、2023 年 4 月にドイツ・ハンブルクにて第 1 回 ICW が開催された。また、席上第 2 回会議 (ICW2026) が日本開催に決定したため、はかり部会下に国内実行委員会及び WG を設置し、次の事項を検討し、広報活動等を行うなど開催のための準備を進めた。

会 期	2026 年 6 月 8 日 (月) ～10 日 (水)
会 場	北九州国際会議場 福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目 8-1
テ ー マ	Innovative Weighing Solutions for a Sustainable World 計量計測が築く持続可能な世界
プログラム	全体講演、パラレルセッション (法定計量、科学計量、応用計量) ポスターセッション 公開講座 テクニカルツアー ガラディナー

(2) CECIP (欧州はかり工業会) との交流

本会と欧州はかり工業会 (CECIP) は、2012 年 10 月東京において計量制度及び各種規制に係る情報交換、展示会及び計量計測機器の生産動向等に係る情報交換を行うことで合意、以後、交流を図ってきている。

○第 74 回 CECIP General Assembly (第 74 回総会) 参加

会 期	2024 年 6 月 6 日 (木) ～7 日 (金)
会 場	Grand Hotel Towers Prague／チェコ共和国 プラハ
参 加 者	(株)田中衡機工業所 代表取締役社長 田中 康之氏 (本会理事／はかり部会長) (一社) 日本計量機器工業連合会 常務理事 高辻 利之 (一社) 日本計量機器工業連合会 業務部課長 芳川 尚子
プログラム	(計工連参加部分)

- 1) International Cooperation Group meeting (ICG 会合)

日 時 2024 年 6 月 6 日 (木) 14 時～15 時 30 分

参 加 者 CECIP (Dr. Luis Cachon, CECIP President

Mr. Daniel Kneubühl, ICG president ほかに10名ほど)

計工連 田中部会長、高辻常務理事、芳川

議 題 ICW2026 の準備の進め方について

CECIP Associate Membership について

2) Legal Metrology Seminar

日 時 2024 年 6 月 6 日 (木) 15 時～17 時 30 分

① 「Updates – Revision of OIML R76,」

Mr. Paul Dixon, BIML

② 「Metrology and Digitalization under the SI」

Prof. Dr. h.c. Frank Härtig,

③ 「Updates – Revision of OIML R51」

Mr. Ian Turner, UKWF

④ 「The Digital Calibration Certificate (DCC)」

Mr. Steffen Osang, Minebea Intec

⑤ 「Metrology and Digitalization under the SI」

Mr. Frederike Krebs, VDMA European Office

⑥ 「Software in Legal Metrology」

Dr. Martin Koval, CMI

⑦ 「Compatibility Checks (CC) for NAWIs」

Dr. Ulrich Rauchschorbe, Schenck Process

3) General Assembly (公開部分)

日 時 2024 年 6 月 7 日 (金) 13 時～17 時 (open part)

① 「Market surveillance and verification in the Czech Republic」

Mr. Jozef Síkela, Czech Minister of Industry

② 「Metrology in Czech Republic /Recognition of WELMEC, future cooperation with EC」

Mr. Pavel Klenovsky, Welmec

③ 「News from the European Commission, organization of market surveillance, revision update MID/NAWID」

Ms. Zsuzsanna Dakai, DG Grow

④ 「Evaluation Study of Directive 2014/31/EU on non-automatic weighing instruments; and Directive 2014/32/EU on measuring instruments (recast)」

Mr. Loïc Douvillé, CSES

⑤ 「Quality infrastructure: digital present and future」

Dr. Sascha Eichstädt, PTB

⑥ 「Cybersecurity regulation towards secure development and use of connected products in Europe」

Steffen Zimmermann, VDMA

(3) 第13回日韓中計量測定協力セミナーの開催

日本・韓国・中国における計量計測分野における技術交流、人材育成、国際勧告・規格の情報交換、相互理解の促進等を図ることを目的とした第13回日韓中計量測定協力セミナーが、韓国ソウルで開催された。日本からは代表12名が参加し、セミナー発表、意見交換を行うなどして交流を促進した。

開催日 2024年9月4日（水）～9月6日（金）

場 所 韓国・ソウル

「ノボテルアンバサダーホテルカンナム」

主 催 韓国計量測定協会（KASTO）韓国計量標準科学研究院（KRISS）

後援機関 中国国家市場監督管理総局（SAMR） 中国計量科学研究院（NIM）
中国計量協会（CMA）
（一社）日本計量機器工業連合会（JMIF）
（一社）日本計量振興協会（JAMP）

出席者 44名

中国 中国計量協会（CMA） 2名

韓国 校正機関、校正事業者、計量計測機器製造事業者 34名

日本 谷田 千里 (株)タニタ 代表取締役社長 10名

三澤 慶一郎 (一社)日本計量機器工業連合会 専務理事

宮沢 敬治 (一社)日本計量振興協会 専務理事

田中 康之 (株)田中衡機工業所 代表取締役社長

山本 浩之 全国自動はかり検定(株) 代表取締役社長

久下 宏一 (株)オーバル システムエンジニアリング部 部長
OVAL Engineering Inc. 社長（代表理事）

李 康熏 (株)オーバル / OVAL Engineering Inc.
品質・経営チーム チーム長

山谷 千秋 (株)タニタ 量産設計部 技術5課 課長

石井 浩朗 (一社)日本計量振興協会 試験・校正センター

芳川 尚子 (一社) 日本計量機器工業連合会 業務部課長
日本からの発表テーマ

「自動はかりの検定」

全国自動はかり検定(株) 代表取締役社長 山本 浩之氏

「船舶スケールの紹介」

(株)田中衡機工業所 代表取締役社長 田中 康之氏

(4) CECIP 及び CWIA との ICW2026 に係る意見交換会

INTERMEASURE 2024 の会期にあわせて、欧州はかり工業会 (CECIP) の ICG (国際連携グループ) 代表の Daniel Kneubühl 氏及び中国衡器協会 (CWIA) メンバーと ICW2026 及び今後の協力事業等について、ICW 国内実行委員会と意見交換を行った。

日 時 2024 年 9 月 19 日 (木) 15 時～17 時

場 所 東京ビッグサイト

参 加 者 Mr. Daniel Kneubühl (ICW)

Mr. Qi Rudong, Mr. Sheng Xiaohui, Mr. Kong Lei (CWIA)

議 題 ICW2026 キービジュアルについて

ICW2026 プログラムについて

CECIP Associate Membership について

(5) 第 16 回日中計量定期協議会の開催

本会は、1983 年に中国計量測試学会及び中国計量協会との間に定期協議会を設置し、情報交換、専門家の相互派遣、展示会の共同開発等の協力事業の推進を図り、両国の計量計測業界の協調と繁栄に努めてきている。

協議会は隔年に双方の地で開催することとしてきたが、2018 年に北京において第 15 回が開催されて以来、コロナ禍で開催が延期されていた。日本での開催は、2015 年以来 9 年ぶりとなる。協議会では、谷田理事・国際事業委員会委員長から、本協議会を継続して開催することに意義があり、それが両国の発展に繋がる旨の挨拶が述べられた。引き続き、朱中国国家市場監督管理総局計量司副司長から、本協議を通じて実施してきた諸事業に満足している旨の意が表明され、今後、更に協力事業を推進していきたい旨の挨拶が行われた。

両国の計量事情について、日本からは、自動はかりの検定を含む日本の計量制度について説明が行われた。中国からは、中国における計量管理制度及び法規制、2021 年から 2035 年の計量開発計画等について紹介が行われた。

さらに、今後の日中協力事業として、展示会への協力及び専門家の相互派遣に加え、本会が構築する「諸外国の法定計量データベース」への情報提供及び ICW があげられた。協議会

には、中国から 7 名の参加があり、日本から 20 名が参加した。協議会開催に続き、午後には、本会会員が対中国事業を推進するうえで大変重要なテーマである「中国計量法及び DX 研究の最新動向」に係る講演会を開催し、中国代表団から「計量機器の型式承認及び検定制」度「中国計量科学研究院におけるリモート校正と DX 研究の進捗」「脱炭素に向けた計量に関する取組の紹介」について講演いただいた。本講演会には、25 機関／社 60 名が参加した。

日 時 2024 年 10 月 15 日（火）10 時～12 時

場 所 アルカディア市ヶ谷

議 題 1. 前回以降の交流協力事業について
2. 日本における最近の計量事情について
3. 中国における最近の計量事情について
4. これからの協力事業について

(1) 法定計量制度データベース情報更新

(2) 考察団及び専門家の相互派遣

(3) 展示会への参加協力

(4) 計量情報資料の交換

(5) International Conference of Weighing (ICW) 2026

参 加 者 Ms. Zhu Meina Deputy Director General, Metrology Department,
State Administration for Market Regulation (SAMR) /

国家市場監督管理総局 計量司 副司長

Ms. Li Yuan Director of the Industrial and Resource Environment
Metrology Division, Metrology Department, SAMR /

国家市場監督管理総局 計量司 産業資源環境計量処長

Mr. Tian Feng Director of Quality Department,
National Institute of Metrology (NIM) /

中国計量科学研究院 品質部門長

Mr. Zhu Yiwei Assistant Researcher, NIM / 中国科学研究院 研究者

Ms. Chen Meixuan, Engineer, Chinese Society for Measurement (CSM)
/ 中国計量測試学会 技術者

Ms. Zhang Jianan, Academic and Membership Department,

Deputy Director, CSM / 中国計量測試学会 教育及び会員部門 副部長

Mr. Wang Xiaodong, Vice Chairman / Secretary General,

China Metrology Association (CMA) / 中国計量協会 副理事長兼秘書長

(6) CAS Corporation との ICW2026 に係る意見交換会

韓国 CAS Corporation 代表取締役社長の Indy (Tae-in) Kim 氏を迎え、ICW2026 について、実行委員会との意見交換を行った。

日 時 2025 年 1 月 23 日 (木) 15 時～16 時 30 分

場 所 日本計量会館

参 加 者 Mr. Indy (Tae-in) Kim, CAS Corporation 代表取締役社長

議 題 ICW2026 準備状況について
ICW2026 プログラムについて

(7) 外国の計量計測関係機関、団体等との交流

貿易の促進、海外への技術移転をはじめとする国際関係事業の円滑な推進を図ってゆくため、外国の関係機関、団体との交流を積極的に行っていくことが要請されている。

本年度は次の諸機関、団体との交流を行い、相互理解に努めた。

- ・国際度量衡局／BIPM
- ・国際法定計量機関／OIML
- ・ドイツ機械工業連盟／VDMA
- ・スイス連邦計量・認定局／METAS
- ・欧州はかり工業会／CECIP
- ・中国国家市場管理監督総局／SAMR
- ・中国計量測試学会／CSM
- ・中国計量協会／CMA
- ・中国衡器協会／CWIA
- ・韓国計量測定協会／KASTO
- ・台北市度量衡商業同業公会
- ・オーストラリアはかり工業会／WIAA
- ・アルゼンチン計量計測機器団体／CAFIPEM
- ・ブラジルサンパウロ計測ネットワーク／REMESP
- ・タイ国家計量標準機関／NIMT
- ・ベトナム国家計量標準機関／VMI
- ・ベトナム政府品質基準センター／STAMEQ
- ・イギリス国立物理学研究所／NPL

8. 循環型社会対応に係る事業

(1) 情報提供／関連団体との共催による講演会開催

国内外の環境規制の動向に係る講演会を関連団体と連携して開催した。

- タイトル 環境セミナー 2024
ー医療・計測・分析・制御機器における環境関連法規制の最新動向ー
- 主催 本会を含む医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会
- 日時 2025年2月6日（木）10時～17時5分
- 場所 （一社）日本電気計測器工業会 会議室及びオンライン
- プログラム ① 日本の国際潮流（ストックホルム条約を中心に）
② エコデザイン規則の最新動向
③ PFAS 規制の最新動向
④ 中国、アジア諸国の RoHS 類似規制の最新動向
⑤ 欧州の製品環境規制最新動向
⑥ パネルディスカッション
「どうする？増える新規規制物質への対応！ ～POPs 物質の対応・米国 PFAS 報告事例紹介～」

(2) 化学物質規制に対する意見の提出

本会会員企業の製品の製造、販売等に影響が及ばないように、カテゴリ8&9 連絡会の所属団体と情報共有を行いながら、EU RoHSをはじめとした欧州やアメリカにおけるその他の化学物質規制について、関係団体を通して意見出しを行った。

(3) 環境情報に係る講演会の開催

カーボンニュートラルを実現するため、製品やサービスの原料採掘、調達から製造、廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体で発生した環境負荷を定量的かつ客観的に評価する手法である LCA（ライフサイクルアセスメント）への関心が高まっていることから、LCA をテーマに講演会を開催した。

- 日時 2024年11月8日（金）15時～17時
- 場所 計器健康保険組合 6階大会議室
- 受講者 17社 22名
- テーマ 「なぜLCAが必要なのか
～LCA 規制の動向と原単位データベース AIST-IDEA のご紹介～」
- 講師 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域

領域長補佐／連携推進室長 玄地 裕氏

(4) 環境情報に係るセミナーの開催

2024年9月18日(水)から20日(金)の3日間、東京国際展示場(東京ビッグサイト)において開催されたINTERMEASURE 2024(第31回計量計測展)において、環境情報に係るセミナーを開催した。

日 時	9月19日(木)、20日(金) 13時45分～14時15分
場 所	東2ホール「はかるプラザ」
テ ー マ	PFAS規制の現状と計工連の対応 ～身近で便利な化学物質PFAS～
講 師	(株)チノー 品質本部品質・環境マネジメント部 松永 智子氏

日 時	9月19日(木)、20日(金) 14時30分～15時
場 所	東2ホール「はかるプラザ」
テ ー マ	SDGs達成に向けたクボタグループの環境経営
講 師	(株)クボタ 生産技術本部環境管理部 環境推進課長 外山 幸子氏

9. 行政施策等に関する協力事業

(1) 各種法令及び行政施策等への意見具申

計量法関連法令に関し、経済産業省計量行政室等を通じて意見反映に努めるとともに、各種法令及び行政に対し、意見の具申を行うとともに、行政施策に係る調査に協力した。また、次の資料・情報を収集し、改正法令・通達等を関係会員へ周知するなど行政の円滑な施行に協力した。

- ・計量単位規則の一部を改正する省令施行について
- ・計量法施行規則等改正のパブリックコメント開始について（7/2～7/31）
- ・指定製造事業者の指定等に関する省令に基づく細目に関する公示について
- ・計量法施行規則等の一部改正について
- ・計量法関係手数料令改正のパブリックコメント開始について（10/18～11/16）
- ・指定製造事業者の指定等に関する省令に基づく品質管理の方法の細目改正案に関するパブリックコメント開始について（10/31～11/30）
- ・国交省のソフトメーターの認証告示に関わるパブリックコメント開始について（11/14～12/14）
- ・計量法関係手数料令の一部改正について
- ・指定製造事業者の指定等に関する省令に基づく細目に関する公示について
- ・計量法関係手数料規則等改正のパブリックコメント開始について（2/4～3/5）

(2) 技能試験の実施

（独）製品評価技術基盤機構（NITE）では、JCSS 登録事業の申請及び更新を行う際の測定技術能力の保持／維持を示すため、技能試験又はその代替手法への参加を要求している。

本会では、NITE の指導の下、技能試験プロバイダーとして、電子式非自動はかり及びデジタル圧力計（気体用・液体用）の技能試験を主催した。実施にあたっては専門家委員会を組織し、技能試験の結果について評価を行い、その結果を報告書に取りまとめ NITE へ通知した。

① 2024 年度電子式非自動はかり技能試験

実施機関：（一社）日本計量機器工業連合会

期 間：2024 年 11 月 11 日（月）～21 日（木）

参照試験所：（一財）日本品質保証機構

校正機器：電子式非自動はかり：ひょう量 220 g 目量 0.1 mg

電子式非自動はかり：ひょう量 8200 g、目量 0.01 g

電子式非自動はかり：ひょう量 34 kg 目量 0.1 g

参加事業者数：13 事業者

② 2024 年度デジタル圧力計技能試験

実施機関：（一社）日本計量機器工業連合会

期 間：2024 年 9 月 24 日（水）～2025 年 3 月 28 日（金）

参照試験所：産業技術総合研究所

仲 介 器：気体用高精度デジタル圧力計 測定範囲：気体ゲージ圧力 300 kPa－3500 kPa

液体用高精度デジタル圧力計 測定範囲：液体ゲージ圧力 10 MPa-100 MPa

参加事業者数：19 事業者

（３）基準認証制度に関する企業支援

計量器の校正等の基準認証制度に資するため、国際規格 ISO/IEC 17025 に基づく校正事業者の認定取得に関する支援業務を行った。

（４）計測標準フォーラム活動への協力

計測標準関係団体及び機関が協力して計測トレーサビリティ制度についての啓発活動、計量トレーサビリティ制度の充実・向上等、我が国の計量標準の国際的な同等性確保及び相互承認に向けた体制づくりに寄与することを目的に、2000 年 12 月に計測標準フォーラムが発足した。

本会も発足当初から参画し、フォーラム事業活動の推進に協力している。本年度は、2024 年 9 月 19 日（木）に東京ビッグサイトで開催された第 22 回講演会の共催団体として同講演会の企画、運営実施等々に協力した。

（５）内閣府規制改革会議「スタートアップ・イノベーション促進ワーキング・グループ」への対応について

水道事業の DX 化に伴う水道スマートメーターの導入を促進するため、内閣府規制改革会議標記 WG が開催された。この中で、水道メーターの計量法上の検定有効期間の延長が提案され、経済産業省に対して、現在定められている有効期間を羽根車式・電磁式・超音波式水道メーターそれぞれの特性に応じて見直すよう求められた。

本件への対応のため、経済産業省では、羽根車式には検定有効期間満了品の器差試験を通じた性能の現状把握、電磁式・超音波式については、海外で認められたデータやストレステスト等の手法を用いて検証を実施し、それぞれの特性に応じた有効期間への見直しが求められたことから、本会に協力要請があった。これに対応するため、水道メーター技術委員会を中心に、検定有効期間の妥当性評価方法の確立に協力した。

10. 業務活動

(1) 業界振興・助成策の活用等

中小企業支援策、計量標準供給基盤強化事業、先端技術実証・評価設備整備費等補助金、先端設備や省エネ設備に対する投資支援、中小企業関連税制等々の概要を会報、ホームページ、E-mail 等で周知し、これら振興・助成制度の活用促進に資した。

(2) 下請取引自主行動計画の改定およびフォローアップ

サプライチェーン全体での「取引適正化」と「付加価値向上」に向けた自主行動計画策定と着実な実行の要請を受け、本会では会員各社の適正な取引を実現するため、また、働き方改革関連法施行への対応として、2020 年 1 月に「適正な下請取引の推進とサプライチェーンの生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画」を策定した。本年度は、2024 年 3 月に行われた振興基準の改正（「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」の活用による労務費の適切な価格転嫁、原材料費・エネルギーコストの適切な増加分の全額転嫁）に伴い、また、手形が下請代金の支払手段として用いられる場合の指導基準の変更を踏まえ、4 月に自主行動計画の改定を行うとともに、自主行動計画のフォローアップとして会員企業に対し、アンケートを実施し、結果について集計・分析を行った。

(3) 中小企業等経営強化法の経営力向上設備等に係る生産性向上要件証明書発行

本会は、計量計測機器に対する中小企業等経営強化法に基づく経営力向上設備等及び先端設備等に係る生産性向上要件証明書発行団体に指定されていることから、申請内容を確認し、適正なものについて証明書を発行するなどして同制度の普及に協力した。

証明書発行件数 3,843 件（2024 年 4 月 3 日～2025 年 3 月 31 日）

(4) 中小企業省力化投資補助事業への協力

政府は、中小企業等の売上拡大や生産性向上を後押しするため、人手不足に悩む中小企業等が IoT・ロボット等の人手不足解消に効果がある汎用製品を導入するための事業費等の経費の一部を補助することにより、省力化投資を促進して中小企業等の付加価値額や生産性向上を図るとともに、賃上げにつなげることを目的とし、「中小企業省力化投資補助事業」を行っている。

本会では、会員企業等の要望を受け、当該事業における製品カテゴリ登録申請を行った結果、以下の製品について、製品カテゴリが創設された。

本会は審査担当工業会として、申請のあった製品を当該製品カテゴリの省力化基準に照らして審査し、補助金事務局の確認、外部有識者委員会の意見招請、中小企業庁及び業所管省

庁等の協議を経て認められた省力化製品について証明書を発行した。

登録された製品カテゴリ：「タブレット型給油許可システム」（2024 年 5 月登録）

「CNC 三次元測定機」（2025 年 3 月登録）

（５）委員会、部会等の活動

本年度の委員会活動は、別掲会議日誌に記載のとおり行うなどして、本会の運営、事業の実施推進を図った。また、部会活動も別掲のとおり講演・会議を開催するなどして同業者の共通課題について討議し、意思の疎通を図った。

（６）情報資料の刊行

次の各種刊行物をまとめ会員へ配布し、企業経営の参考に供した。

① 計工連会報（No. 400～409）

内容：お知らせ	会員の動静
会議予告	活動状況
情報・資料の紹介	

② 計量計測機器輸出入実績表

2023 年 1 月～12 月分の機種別・国別表

輸出額 13,692 億円（対前年比 98.6%）

輸入額 9,005 億円（対前年比 110.6%）

③ 労務情報

内容：2024 年春季昇給額状況調査結果

2024 年夏季賞与支給額状況調査結果

2024 年年末賞与支給額状況調査結果

定年延長の実態に係る調査結果

④ 景気・業況・施策等に対する会員の意見調査報告書（年 2 回）

（７）講演会、講習会、見学会等の開催

技術開発、規格の普及、市場動向の把握、行政施策、各種規制、制度活用等、業界各社の企業経営に資するため、2024 年度事業計画に基づき、別掲会議日誌等に記載のとおり、セミナー、講演会、見学会を実施した。

（８）生産統計資料の作成

生産統計資料

以下の計量計測機器を対象に、生産実績の調査を月単位、四半期あるいは半期毎に実施

している。集計結果については参加企業へ報告し、経営計画、生産計画、営業分析等の資料に供するほか、本会ホームページに掲載し、一般に広く公開している。本会としても、常に業界の生産動向を把握し、各種事業活動への反映を図るとともに、必要に応じて経済産業省等関係機関へ要望していくための資料として活用している。

長さ計	(四半期毎)	ガソリン計量機	(毎月)
はかり	(毎月)	ロードセル	(四半期毎)
流量計	(四半期毎)	計量計測機器の生産状況	(毎月)
レベル計	(四半期毎)		

(9) 本会ホームページの運営

本会の事業活動をはじめ、計量計測機器に関連する情報資料を公開・提供するためホームページを設置し、管理運営している。本会ホームページは 2024 年 3 月にリニューアルを行い、視認性やセキュリティを大幅に高めており、本年度は更なるコンテンツの充実を図った。

ホームページ URL <https://www.keikoren.or.jp>

(10) 顕彰関係

本年度は次の方々がそれぞれ顕彰された。

○ 叙勲・褒章（敬称略）

勲章（旭日双光章）

横 田 貞 一	平和衡機(株) 代表取締役会長
大 平 岳 男	(株)新潟計量システム 代表取締役社長

勲章（瑞宝単光章）

瀧 深 功	元(株)ミットヨ 宇都宮事業所 購買部部長付
-------	------------------------

褒章（黄綬褒章）

荒 川 正 行	(株)クボタ 京葉工場 鉄管製造課シニアエキスパート
---------	-------------------------------

○ 経済産業大臣表彰（計量関係功労者表彰）（敬称略）

河 住 春 樹	元（一社）日本計量振興協会 専務理事
小 島 孔	本会顧問
田 中 義 一	(株)共和電業 代表取締役社長
村 松 徳 治	元（一社）日本計量振興協会 常務理事

○ 経済産業省イノベーション・環境局長表彰（計量制度運営等貢献者表彰）
（敬称略）

畦 本 勝 也	(株)オーバル システム部 課長
佐々木 正 直	(株)チノー 久喜事業所標準技術部 標準技術部長
重 森 明	本会事務局長付
高 辻 利 之	本会常務理事
平 川 慎 一	(株)島津製作所 分析計測事業部 分析計測工場 シニアマネージャー

○ 第 66 回計量機器事業振興功労者顕彰（敬称略）

感 謝 状

田 中 義 一	本会前会長 (株)共和電業 代表取締役社長
依 田 恵 夫	本会前副会長 長野計器(株) 相談役
小 島 孔	本会前専務理事
兵 田 善 男	本会前常任理事 兵田計器工業(株) 代表取締役社長
新 美 眞 澄	本会前理事 アンリツ(株) 取締役
乾 佳 彦	本会前理事 関西ガスメータ(株) 取締役会長

表 彰 状

(51 名)

石 井 啓 介	(株)共和電業	品質・製品本部標準器室室長
石 原 洋 介	トキコシステムソリューションズ(株)	中日本支店高松営業所 松山駐在員事務所
岩 尾 健 司	トキコシステムソリューションズ(株)	流体制御システム設計部
上 原 基 彦	東洋計器(株)	理事ガス事業部長

大 壁 宏 康	東京計装(株)	営業本部副本部長
大 場 弘	(株)タニタ	購買部
岡 村 健	(株)島津製作所	分析計測事業部試験機ビジネスユニット
		製品開発グループグループ長
小田中 衛	長野計器(株)	常勤監査役
鎌 田 一	新光電子(株)	開発部開発 2 課ソフト開発係
河 原 博 之	(株)共和電業	経営管理本部副本部長
菅 野 健 一	(株)フクダ	東北製造部次長
木 戸 俊 一	(株)共和電業	エンジニアリング本部
		エンジニアリング部部長
小 嶋 務	(株)タツノ	参与エネルギーソリューション
		事業部長
後 藤 文 利	(株)寺岡精工	海外販売統括部営業部部長
齋 藤 文 克	(株)寺岡精工	リテイル事業部執行役員
齊 藤 誠	愛知時計電機(株)	生産本部水機器製造部長
島 田 政 樹	東京計装(株)	OEM 事業本部セールス
		エンジニアリング部部長
瀬 野 秀 明	(株)タニタ	購買部
竹 内 政 広	長野計器(株)	製造本部生産技術部
		上田生産技術課課長
多 田 隆 志	鎌長製衡(株)	リサイクルシステム部部長
田 中 博 之	(株)島津製作所	CS 統括部規格認証グループ
		グループ長
茶 木 晃	(株)田中衡機工業所	専務取締役
津 村 泰 行	(株)タツノ	取締役〔工場運営担当・
		技術本部長・生産本部管掌〕
豊 岡 弘	(株)東日製作所	技術部部長
		(TS グループ, IS グループ)
永 井 祐 司	(株)チノー	藤岡事業所計装統括部
		第 2 計装部ループ計装 1 課課長
中 川 泰 一	(株)寺岡精工	営業本部営業部部長
中 島 健 志	東フロコーポレーション(株)	鹿児島事業所技術営業 G 課長
長 島 麻 未	旭計器工業(株)	営業事務係長
中 山 和 彦	坂田電機(株)	営業部課長
名 村 和 典	日東インダ(株)	技術・メンテ職

羽 賀 裕 之	シンワ測定(株)	営業部部長
橋 本 実	(株)村上衡器製作所	製造部製造 3 班（上天 Gr.）
橋 本 好 文	トキコシステムソリューションズ(株)	郡山営業所職員
羽 田 幸 彦	長野計器(株)	経営統括本部情報システム部次長
林 田 正 義	(株)イシダ	国内産機システム部門執行役員
原 田 茂 起	エスペック(株)	東日本営業ブロック
		高崎営業グループ参事補
肥 土 憲 幸	東京計装(株)	流量計製造本部第 3 製造部副部長
北 条 真一郎	(株)島津製作所	分析計測事業部分析計測工場試験機
		製造部製造管理グループマネージャー
本 田 勝 則	ヤマヨ測定機(株)	営業部名古屋営業所所長
松 岡 健 一	(株)オーバル	生産技術部門部長
松 本 康 成	アズビル金門(株)	参与／アズビル金門
		エンジニアリング(株)取締役
三田尾 健 司	大和製衡(株)	一般機器技術部部長
三 宅 伸 一	(株)オーバル	営業企画管理部門部長
村 上 奈都子	(株)トミナガ	営業本部次長
夜 久 亨	(株)ミットヨ	研究開発本部デバイス
		技術開発部部長付
柳 原 毅	(株)タツノ	生産本部長兼生産技術部部長
山 内 良 吾	(株)クボタ	精密機器製造部部長
山 崎 淳 子	山崎計器(株)	取締役
山 田 健 太	アンリツ(株)	インフィビスカンパニー
		開発本部商品開発部課長
渡 辺 栄 司	アズビル金門(株)	北海道支店支店長
渡 邊 一 樹	愛知時計電機(株)	生産本部ガス機器製造部副部長

会 議

本会の運営、事業の実施について審議するため、本年度において開催した総会、理事会、常任理事会、代表者懇談会、委員会及び部会等は次のとおりである。

○ 総会

第13回定時総会（2024年5月21日 於 東京會館）

○ 理事会

第57回理事会（2024年4月19日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第58回理事会（2024年5月21日 於 東京會館）

第59回理事会（2024年7月17日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第60回理事会（2024年10月18日 於 グランヴィア京都及びオンライン）

第61回理事会（2025年3月19日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

○ 常任理事会

第29回常任理事会（2024年4月19日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第30回常任理事会（2024年12月11日 於 明治記念館）

○ 監事会（2024年4月16日 於 日本計量会館）

○ 公認会計士・税理士による2023年度決算のチェック（2024年4月10日 於 日本計量会館）

○ 代表者懇談会

第131回代表者懇談会（2024年10月18日 於 京都市）

（1）見 学 量子科学技術研究開発機構 関西光量子科学研究所

（2）懇談会 「フォーチュンガーデン京都」

第132回代表者懇談会（2025年1月15日 於 明治記念館）

（1）講演会

（2）新年賀詞交歓会

○ 総務政策委員会

第26回委員会（2024年4月11日 於 グランドヒル及びオンライン）

- 第27回委員会（2024年7月12日 於 日本計量会館及びオンライン）
第28回委員会（2024年9月30日 於 日本計量会館）
第29回委員会（2024年11月15日 於 (株)宮崎オーバル / 霧島酒造(株)）
第30回委員会（2024年12月9日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）
第31回委員会（2025年3月3日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

○ 労務委員会

- 第218回委員会（2024年7月24日 於 日本計量会館及びオンライン）
第219回委員会（2024年11月15日 於 (株)宮崎オーバル / 霧島酒造(株)）
第220回委員会（2025年1月16日 於 日本計量会館及びオンライン）

- 第1回幹事会（2024年6月13日 於 日本計量会館及びオンライン）

労務講演会

開催日 2024年10月10日
場 所 Fabbitt 会議室丸の内及びオンライン

学内業界セミナー

開催日 2024年10月29日
場 所 オンライン（山梨大学）

開催日 2024年11月6日
場 所 オンライン（湘南工科大学）

開催日 2024年12月5日
場 所 オンライン（福岡工業大学）

○ 技術委員会

- 第171回委員会（2024年8月5日 於 グランドヒル市ヶ谷）
第172回委員会／施設視察（2025年1月31日 於 海上自衛隊横須賀地方総監部）

○ はかり技術委員会

- 第85回委員会（2024年8月21日 於 日本計量会館及びオンライン）
中国衡器協会（CWIA）との意見交換会（2024年9月19日 於 東京ビッグサイト）

擬似材料標準仕様作成 WG

第 3 回 WG (2023 年 5 月 19 日 於 日本計量会館及びオンライン)

第 4 回 WG (2023 年 7 月 12 日 於 日本計量会館及びオンライン)

第 5 回 WG (2023 年 12 月 4 日 於 日本計量会館及びオンライン)

はかり技術者養成セミナー

開催日 2024 年 10 月 4 日

場 所 新大阪丸ビル

開催日 2024 年 10 月 18 日

場 所 日本計量会館及びオンライン

○ はかり及び分銅の管理・校正技術に関する講習会

開催日 2024 年 11 月 27 日

場 所 新大阪丸ビル新館

○ 流量計技術委員会

第 117 回委員会 (2025 年 3 月 6 日 於 日本計量会館及びオンライン)

液体用及び気体用流量計の校正方法に関する JIS 解説セミナー

開催日 2024 年 12 月 20 日

場 所 日本計量会館

流量計技術者養成セミナー

開催日 2025 年 2 月 18 日～19 日

場 所 日本計量会館及びオンライン

○ 流量計マニュアル編集委員会

第 2 回委員会 (2024 年 5 月 15 日 於 日本計量会館及びオンライン)

○ 水道メーター技術委員会

第 44 回委員会 (2024 年 7 月 11 日 於 リッチモンドホテル宇都宮駅前アネックス及び
オンライン)

第 45 回委員会 (2024 年 10 月 2 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)

第 46 回委員会 (2024 年 12 月 18 日 於 飯田橋レインボービル及びオンライン)

- 第 47 回委員会 (2025 年 2 月 5 日 於 オンライン)
第 48 回委員会 (2025 年 3 月 11 日 於 日本計量会館及びオンライン)

○ レベル計技術委員会

- 第 24 回委員会 (2024 年 3 月 15 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)
第 25 回委員会 (2024 年 7 月 11 日 於 ホテルサンルート宇都宮及びオンライン)
第 26 回委員会 (2025 年 3 月 7 日 於 日本計量会館及びオンライン)

レベル計測入門セミナー

- 開催日 2024 年 10 月 24 日～25 日
場 所 新大阪丸ビル新館

○ 騒音計・振動レベル計技術委員会

- 第 11 回委員会 (2024 年 8 月 20 日 於 日本計量会館及びオンライン)
第 12 回委員会／見学会 (2025 年 3 月 10 日 於 日本品質保証機構)

○ 市場開発委員会

- 第 182 回委員会 (2025 年 2 月 18 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)

- 第 1 回幹事会 (2024 年 6 月 12 日 於 日本計量会館及びオンライン)
第 2 回幹事会 (2024 年 9 月 6 日 於 みんなの貸会議室天神西通り北店)
第 3 回幹事会 (2024 年 11 月 8 日 於 日本計量会館及びオンライン)
第 4 回幹事会 (2025 年 1 月 27 日 於 日本計量会館及びオンライン)
第 5 回幹事会 (2025 年 2 月 18 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)

○ 国際事業委員会

- 第 99 回委員会 (2024 年 7 月 25 日 於 日本計量会館及びオンライン)
第 100 回委員会 (2024 年 10 月 15 日 於 アルカディア市ヶ谷)
第 101 回委員会 (2025 年 1 月 30 日 於 日本計量会館及びオンライン)
諸外国の法定計量制度に係るデータベース構築 WG
第 21 回 WG (2024 年 4 月 24 日 於 日本計量会館及びオンライン)
第 22 回 WG (2024 年 7 月 31 日 於 オンライン)
第 23 回 WG (2025 年 1 月 21 日 於 榊ケツト科学研究所及びオンライン)

○ 令和6年度計量計測機器製造業高齢者雇用推進委員会

第1回推進委員会（2024年5月28日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第2回推進委員会（2024年7月2日 於 グランドヒル市ヶ谷）

第3回推進委員会（2024年11月14日 於 ホテル エルシエント京都八条口）

第4回推進委員会（2024年12月17日 於 グランドヒル市ヶ谷）

高齢者雇用推進普及啓発セミナー（東京）（2024年10月31日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

高齢者雇用推進普及啓発セミナー（京都）（2024年11月14日 於 ホテル エルシエント京都八条口）

○ 広報委員会

第10回委員会（2024年9月4日 於 日本計量会館及びオンライン）

第11回委員会（2024年12月10日 於 Shimadzu Tokyo Innovation Plaza）

第12回委員会（2025年3月6日 於 日本計量会館及びオンライン）

JEMIMA 広報委員会との意見交換会（2025年3月25日 於 JEMIMA 計測会館及びオンライン）

○ INTERMEASURE 2024 実行委員会

第3回実行委員会（2024年4月16日 於 日本計量会館及びオンライン）

第4回実行委員会（2024年6月20日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第5回実行委員会（2024年12月10日 於 Shimadzu Tokyo Innovation Plaza）

出展者説明会（2024年6月20日 於 オンライン）

○ はかる編集 WG

第8回 WG（2024年5月7日 於 オンライン）

第9回 WG（2024年7月22日 於 オンライン）

第10回 WG（2024年10月4日 於 オンライン）

第11回 WG（2024年11月19日 於 オンライン）

第12回 WG（2024年12月23日 於 オンライン）

第13回 WG（2024年2月10日 於 日本計量会館）

○ 環境委員会

第 63 回委員会 (2024 年 4 月 17 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

第 64 回委員会 (2024 年 6 月 28 日 於 三菱重工業(株)高砂製作所「高砂工場」「高砂水素パーク」)

第 65 回委員会 (2024 年 8 月 8 日 於 日本計量会館及びオンライン)

第 66 回委員会 (2024 年 11 月 8 日 於 計器健康保険組合及びオンライン)

第 67 回委員会 (2025 年 2 月 13 日 於 沖縄県市町村自治会館及びオンライン)

講演会

開催日 2024 年 11 月 8 日

場 所 計器健康保険組合及びオンライン

見学会

開催日 2025 年 2 月 12 日

場 所 沖縄東京計装(株)、沖縄電力(株)具志川火力発電所

○ 国際法定計量調査研究委員会

第 1 回委員会 (2024 年 7 月 23 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

第 2 回委員会 (2025 年 2 月 12 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)

作業委員会

第 1 回質量計作業委員会 (2024 年 6 月 26 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

第 1 回圧縮燃料ガス計量システム作業委員会 (2024 年 9 月 12 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

第 1 回自動はかり等作業委員会 (2024 年 10 月 9 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

水素調査事前打合せ会 (2024 年 10 月 28 日 於 日本計量会館)

第 1 回情報化作業委員会 (2025 年 1 月 9 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)

第 2 回圧縮燃料ガス計量システム作業委員会 (2025 年 2 月 6 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

第 2 回自動はかり等作業委員会 (2025 年 2 月 25 日 アルカディア市ヶ谷及びオンライン)

国際会議

TC9/SC2/p10 (R51「自動捕捉式はかり」改正) プロジェクト・グループ会議

開催日 2024 年 6 月 3 日～6 日

場 所 産総研会議室（経済産業省内）にてオンライン参加

TC9/SC2/p10（R51「自動捕捉式はかり」改正）プロジェクト・グループ会議

開催日 2024 年 11 月 13 日～14 日

場 所 産総研会議室（経済産業省内）にてオンライン参加

D11「計量器に対する一般要求事項－環境条件」改正 PG 会議

開催日 2025 年 2 月 11 日～14 日

場 所 オンライン参加

D31「ソフトウェア制御計量器のための一般要件」改正PG会議

開催日 2025 年 3 月 4 日～5 日

場 所 ドイツ・ベルリン

R46 有効電力量計、G22 / Rxxx: 電気自動車用充電装置/EVSE /Rxxx: 電力量計一直流
PG 会議

開催日 2025 年 3 月 10 日～14 日

場 所 チェコ・プラハ

○ ISO/TC28/SC2 国内対策委員会

第 1 回委員会（2024 年 12 月 9 日 於 日本計量会館及びオンライン）

○ 微流量燃料油メーターJIS 改正検討委員会

第 1 回委員会（2024 年 7 月 17 日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第 2 回委員会（2024 年 9 月 25 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

第 3 回委員会（2024 年 11 月 7 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

第 4 回委員会（2025 年 1 月 22 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

○ 密度浮ひょう及び浮ひょう型比重計 JIS 原案作成委員会

第 1 回委員会（2024 年 8 月 29 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

第 2 回委員会（2025 年 1 月 23 日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

○ 密度浮ひょう及び浮ひょう型比重計 JIS 原案作成分科会

第 1 回分科会（2024 年 7 月 25 日 於 主婦会館及びオンライン）

- 第2回分科会（2024年9月27日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）
- 第3回分科会（2024年11月14日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）
- 第4回分科会（2024年12月10日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

○ 自動捕捉式はかり JIS 原案作成委員会

- 第1回委員会（2024年8月6日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）
- 第2回委員会（2025年1月29日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

○ 自動捕捉式はかり JIS 原案作成分科会

- 第1回分科会（2024年7月3日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）
- 第2回分科会（2024年9月10日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）
- 分科会関係者検討会（2024年10月8日 於 日本計量会館）
- 第3回分科会（2024年11月5日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）
- 第4回分科会（2024年12月25日 於 アルカディア市ヶ谷及びオンライン）

○ 重錘形圧力天びん、重錘形圧力天びんの使用方法及び校正方法 JIS 原案作成委員会

- 第1回委員会（2024年10月7日 於 日本計量会館及びオンライン）
- 第2回委員会（2025年2月4日 於 日本計量会館及びオンライン）

○ 重錘形圧力天びん、重錘形圧力天びんの使用方法及び校正方法 JIS 原案作成分科会

- 第1回分科会（2024年12月11日 於 日本計量会館及びオンライン）

○ DX 活用推進を目的としたポスターセッション・技術セミナー・工場見学会

開催日 2024年7月10日
場 所 ㈱ミットヨ MC・測器工場

開催日 2024年7月11日
場 所 ㈱ミットヨ 清原工場

○ 経営者研修セミナー／人材確保セミナー

開催日 2024年7月17日
場 所 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン

○ 経営者研修セミナー

開催日 2024年12月11日

場 所 明治記念館

○ 新技術導入・活用研究会

第1回研究会（2024年10月29日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第2回研究会（2024年11月29日 於 日本計量会館及びオンライン）

第3回研究会（2024年12月17日 於 日本計量会館及びオンライン）

第4回研究会（2025年1月22日 於 東京科学大学 すずかけ台キャンパス）

第5回研究会（2025年2月14日 於 日本計量会館及びオンライン）

第6回研究会（2025年3月7日 於 水産研究・教育機構 水産研究・開発機構横浜
庁舎及びオンライン）

○ 計量法に係る解説セミナー

開催日 2024年7月4日～7月5日

場 所 日本計量会館

開催日 2024年8月1日～2日

場 所 ホテルマイステイズ新大阪

○ はかり技能試験専門家委員会

第1回委員会（2024年8月27日 於 日本計量会館及びオンライン）

第2回委員会（2024年10月11日 於 オンライン）

第3回委員会（2025年1月17日 於 日本計量会館）

○ 圧力技能試験専門家委員会

第1回委員会（2024年7月8日 於 日本計量会館）

○ 質量標準トレーサビリティ研究会

第1回幹事会（2024年7月5日 於 日本計量会館及びオンライン）

JCSS 技術管理者意見交換会

大阪開催（2024年12月17日 於 新大阪丸ビル）

東京開催（2025年1月28日 於 日本計量会館及びオンライン）

○ ピペットトレーサビリティ研究会

第25回（2024年10月24日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

第26回（2025年3月14日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン）

○ 温度計測・熱物性研究会

第1回研究会（2024年6月27日 於 日本計量会館及びオンライン）

第2回研究会（2025年2月9日 於 産業技術総合研究所及びオンライン）

講演会

開催日 2024年6月27日

場 所 日本計量会館及びオンライン

講演会

開催日 2025年2月25日

場 所 産業技術総合研究所及びオンライン

見学会

開催日 2025年2月25日

場 所 産業技術総合研究所

○ はかり部会

第96回部会（2024年8月21日 於 日本計量会館及びオンライン）

第97回部会（2024年9月13日 於 オンライン）

第18回四国中国支部協議会（2025年2月19日 於 ホテルパールガーデン）

ICW2026 国内実行委員会

第3回実行委員会（2024年5月31日 於 オンライン）

第4回実行委員会（2024年9月13日 於 オンライン）

第5回実行委員会（2025年1月23日 於 日本計量会館及びオンライン）

CECIP 及び CWIA との ICW2026 に係る意見交換会（2024年9月19日 於 東京ビッグサイト）

CAS Corporation との ICW2026 に係る意見交換会（2025年1月23日 於 日本計量会館）

ICW2026 国内実行委員会／プログラム WG

第1回プログラム WG（2024年5月17日 於 オンライン）

第2回プログラム WG（2024年8月21日 於 日本計量会館及びオンライン）

- 第3回プログラムWG (2024年11月6日 於 オンライン)
- 第4回プログラムWG (2025年1月16日 於 オンライン)
- 第5回プログラムWG (2025年2月10日 於 日本計量会館)

ICW2026 国内実行委員会／広報・スポンサーWG

- 第1回広報・スポンサーWG (2024年5月15日 於 オンライン)
- 第2回広報・スポンサーWG (2024年7月4日 於 オンライン)
- 第3回広報・スポンサーWG (2024年8月26日 於 オンライン)
- 第4回広報・スポンサーWG (2024年10月4日 於 オンライン)
- 第5回広報・スポンサーWG (2025年3月27日 於 オンライン)

○ ICW 運営委員会

- 2024年4月2日 於 オンライン参加
- 2024年6月21日 於 オンライン参加
- 2024年9月24日 於 オンライン参加
- 2025年1月16日 於 オンライン参加

ICW 運営委員会／マーケティングサブコミッティ

- 2024年7月8日 於 オンライン参加
- 2025年2月5日 於 オンライン参加

ICW 運営委員会／プログラムサブコミッティ

- 2024年10月7日 於 オンライン参加
- 2025年1月29日 於 オンライン参加
- 2025年3月13日 於 オンライン参加

ICW 運営委員会／ファイナンスサブコミッティ

- 2024年10月8日 於 オンライン参加
- 2025年2月6日 於 オンライン参加

○ 流体計測機器部会

- 第36回部会 (2025年3月19日 於 グランドヒル市ヶ谷及びオンライン)

○ レベル計部会

- 第66回部会 (2024年12月20日 於 神戸国際会館)

見学会

開催日 2024 年 12 月 19 日

場 所 白鶴酒造(株) 本社工場及び灘魚崎工場

○ 長さ測定機器部会

第 65 回部会（2024 年 11 月 21 日 於 村田機械(株)）

見学会

開催日 2024 年 11 月 21 日

場 所 村田機械(株) ショールーム

事業報告書の附属明細書

附属明細書に記載すべき事項は特にありません。

